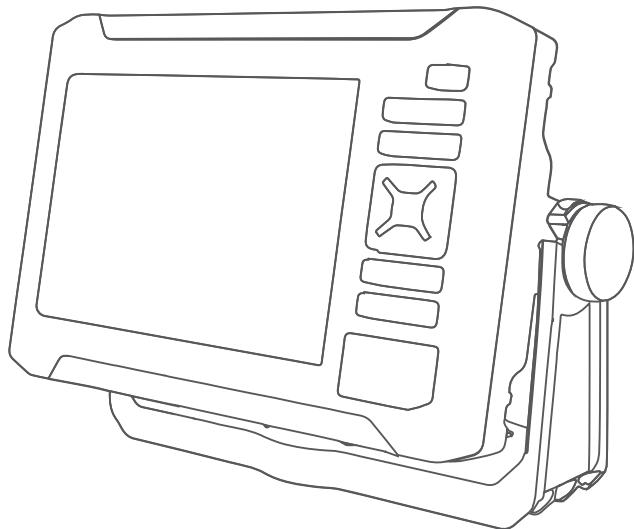


GARMIN[®]



ECHOMAP[™] UHD2 5X/7X

操作マニュアル

© 2022 Garmin Ltd. or its subsidiaries

無断転載禁ず。著作権法により、Garmin 社の書面による承認なしに、本マニュアルの全体または一部をコピーすることはできません。Garmin 社は、ユーザーや組織に通知する責任を負うことなく本マニュアルの内容を変更または改善したり、内容を変更する権利を有します。本製品の使用に関する最新情報および補足情報については、www.garmin.com を参照してください。

Garmin®、Garmin ロゴ、ActiveCaptain®、および BlueChart® は、Garmin Ltd.とその子会社の米国およびその他の国における登録商標です。ECHOMAP™、Garmin ClearVü™、Garmin Connect™、Garmin Express™、Garmin LakeVü™、Garmin Quickdraw™、Garmin Navionics Vision+™、Panoptix™、および OneChart™ は、Garmin Ltd.とその子会社の商標です。これらの商標を、Garmin 社の明示的な許可なしに使用することはできません。

Mac® は米国およびその他の国における Apple Inc. の商標です。microSD® および microSD ロゴは SD-3C, LLC の商標です。Standard Mapping® は Standard Mapping Service, LLC の商標です。Wi-Fi® は Wi-Fi Alliance Corporation の登録商標です。Windows® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他の商標および著作権は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

はじめに.....	1
正面.....	1
デバイスキー.....	2
コネクタ側.....	2
ヒントとショートカット.....	3
チャートプロッターのマニュアルにアクセスする.....	3
Web からマニュアルにアクセス.....	3
Garmin サポートセンター.....	3
メモリーカードを挿入する.....	4
GPS 衛星信号を捕捉する.....	4
GPS ソースの選択.....	4
海図プロッタをカスタマイズする.....	5
メイン画面.....	5
カテゴリー項目の再配置.....	5
ページ設定.....	6
組み合わせページをカスタマイズする.....	6
新しい組み合わせページを作成する....	6
組み合わせページを削除する.....	6
データのオーバーレイをカスタマイズする.....	7
バックライトを調整する.....	7
表示モードを調整する.....	7
カラーテーマを調整する.....	7
チャートプロッターの電源を自動的にオンにする.....	7
システムの電源を自動的にオフにする.....	7
スタートアップ画面をカスタマイズする.....	8
ActiveCaptain® アプリ	8
ActiveCaptain の役割.....	8
ActiveCaptain アプリの操作手順.....	9
ActiveCaptain アプリでのソフトウェアの更新.....	9
ActiveCaptain を使用してチャートを更新する.....	10
チャートのサブスクリプション	10
ワイヤレス共有	10
Wi-Fi ネットワークの設定	10
2 台の互換性のある ECHOMAP デバイスを接続してユーザーデータとソナーを共有する.....	11
チャートプロッタへのワイヤレスデバイスの接続.....	11
Wi-Fi ネットワークの管理.....	12
チャートおよび 3D チャート表示	12
詳細なチャート.....	12
船舶用チャートサブスクリプションの有効化.....	13
ActiveCaptain でのチャートサブスクリプションの購入.....	13
サブスクリプションの更新.....	13
ナビゲーションチャートとの釣りチャート..	14
チャートの記号	14
チャートをズームインまたはズームアウトする.....	14
キーを使用してチャートを回転させる..	15
デバイスキーを使用して地図上のアイテムを選択する.....	15
チャート上で距離を測定する	15
チャート上でウェイポイントを作成する	15
チャート上で位置とオブジェクトの情報を表示する.....	15
ナビエイドに関する詳細を表示する....	15
チャート上のポイントにナビゲーションする.....	16
プレミアムチャート機能	17
フィッシュアイ 3D チャートビュー	17
潮汐観測点情報を表示する.....	18
ナビゲーションチャートに衛星イメージを表示する.....	19
ランドマークの航空写真を表示する....	19
チャートメニュー	19
チャートのレイヤー	20
チャート設定	22
Fish Eye 3D の設定	22
サポートされている地図	22
Garmin QuickdrawContours マッピング	23
Garmin Quickdraw 等深線機能を使用して水域の地図を作成する.....	23
Garmin Quickdraw Contours の地図にラベルを追加する.....	23
Garmin Quickdraw コミュニティ	24

ActiveCaptain で Garmin Quickdraw コミュニティとつながる	24	Auto Guidance 経路を作成して保存する	33
Garmin Quickdraw 等深線の設定	25	保存した Auto Guidance 経路を調整する	33
チャートプロッターを使ったナビゲーション	25	進行中の Auto Guidance 計算をキャンセルする	33
ナビゲーションに関する基本的な質問	26	日時を定めた到着を設定する	33
ルートカラーコーディング	26	オートガイダンス経路の設定	34
目的地	26	トラック	35
名前で目的地を検索する	27	トラックを表示する	35
ナビゲーションチャートを使用して目的地を選択する	27	アクティブトラックの色を設定する	36
海洋サービスの目的地を検索する	27	アクティブトラックを保存する	36
Go To 機能を使用して直線コースを設定して進む	27	保存したトラックのリストを表示する	36
ナビゲーションを停止する	27	保存したトラックを編集する	36
ウェイポイント	27	トラックをルートとして保存する	36
現在の位置をウェイポイントとしてマークする	28	記録したトラックを参照してナビゲーションする	36
さまざまな位置にウェイポイントを作成する	28	保存したトラックを削除する	36
MOB 位置を登録する	28	保存したすべてのトラックを削除する	36
ウェイポイントの予想	28	アクティブトラックを再トレースする	37
すべてのウェイポイントのリストを表示する	28	アクティブトラックを消去する	37
保存したウェイポイントを編集する	28	記録中にトラックのログメモリを管理する	37
保存したウェイポイントを移動する	29	トラックログの記録間隔を設定する	37
保存したウェイポイントを参照してナビゲーションする	29	境界	37
ウェイポイントまたは MOB を削除する	29	境界を作成する	38
すべてのウェイポイントを削除する	29	ルートを境界に変換する	38
ルート	30	トラックを境界に変換する	38
現在の位置からのルートを作成してナビゲーションする	30	境界を編集する	38
ルート作成と保存	30	境界アラームを設定する	38
ルートおよび Auto Guidance 経路のリストを表示する	30	すべての境界アラームを無効にする	38
保存したルートを編集する	30	境界を削除する	38
保存したルートを参照してナビゲーションする	31	保存済みのウェイポイント、トラック、ルート、境界をすべて削除する	38
保存したルートを参照してルートに並行してナビゲーションする	31		
サーチパターンの開始	32	ソナー魚群探知機	39
保存したルートを削除する	32	ソナー信号の送信を停止する	39
保存したすべてのルートを削除する	32	通常魚探ソナー表示	39
オートガイダンス	32	周波数ソナーの分割表示	39
Auto Guidance 経路を設定して進む ..	32	Garmin ClearVü™ソナー表示	40

ソナーの一時停止に関する注意事項	43	システムソフトウェア情報の表示	54																																						
ソナー履歴を表示する	43	E ラベルの規制およびコンプライアンス情報の表示	55																																						
ソナー画面上でウェイポイントを作成する	43	環境設定	55																																						
詳細度を調整する	44	単位設定	55																																						
色の強度を調整する	44	ナビゲーション設定	56																																						
ソナー設定	44	通信設定	57																																						
ソナー画面のズームレベルを設定する	45	接続されているデバイスの表示	57																																						
スクロール速度を設定する	45	アラートの設定	58																																						
範囲の調整	46	ナビゲーションアラート	58																																						
ソーナーノイズ拒否設定	46	システムアラート	58																																						
ソナー表示設定	47	ソナーアラーム	59																																						
ソナーアラーム	47	船舶設定の設定	59																																						
ソナーの詳細設定	48	キールオフセットを設定する	60																																						
振動子取り付け設定	48	水温オフセットの設定	60																																						
ソナー周波数	48	チャートプロッターの工場出荷時の初期設定の復元	61																																						
A スコープの電源をオンにする	49																																								
ゲージとグラフ	49	ユーザーデータの共有と管理を行う	61																																						
ゲージを表示する	50	サードパーティのウェイポイントおよびルートに対するファイルタイプの選択	61																																						
ゲージに表示されるデータを変更する	50	メモリカードからのデータのコピー	61																																						
ゲージをカスタマイズする	50	メモリカードへの全ユーザーデータのコピー	62																																						
トリップゲージを表示する	50	指定エリアからメモリカードへのユーザーデータのコピー	62																																						
トリップゲージをリセットする	51	メモリカードと Garmin Express を使用したビルトインマップの更新	62																																						
グラフを表示する	51	コンピュータへのデータのバックアップ	63																																						
グラフの範囲および時間のスケールを設定する	51	海図プロッタへのバックアップデータの復元	63																																						
潮汐、潮流、および天体情報	52	メモリカードへのシステム情報の保存	63																																						
潮汐と潮流のオーバーレイ	52																																								
潮汐と潮流のオーバーレイの追加	52																																								
潮汐観測点情報	53	付録	63																																						
潮流予報点情報	53	天体情報	53	お取り扱い上の注意事項	63	別の日付の潮汐観測点、潮流予報点、および天体情報を表示する	53	画面のクリーニング	63	別のステーション(潮汐観測点または潮流予報点)の情報を表示する	53	ActiveCaptain と Garmin Express	64	ナビゲーションチャートから暦情報を表示する	53	Garmin Express アプリ	64	デバイス設定	54	コンピュータへの Garmin Express アプリのインストール	64	システム設定	54	Garmin Express アプリを使用してデバイスを登録する	65	サウンドおよびディスプレイ設定	54	Garmin Express アプリを使用してチャートを更新する	66	衛星測位(GPS)設定	54	ソフトウェア更新	66			メモリカード上のイメージの表示	67			スクリーンショット	67
天体情報	53	お取り扱い上の注意事項	63																																						
別の日付の潮汐観測点、潮流予報点、および天体情報を表示する	53	画面のクリーニング	63																																						
別のステーション(潮汐観測点または潮流予報点)の情報を表示する	53	ActiveCaptain と Garmin Express	64																																						
ナビゲーションチャートから暦情報を表示する	53	Garmin Express アプリ	64																																						
デバイス設定	54	コンピュータへの Garmin Express アプリのインストール	64																																						
システム設定	54	Garmin Express アプリを使用してデバイスを登録する	65																																						
サウンドおよびディスプレイ設定	54	Garmin Express アプリを使用してチャートを更新する	66																																						
衛星測位(GPS)設定	54	ソフトウェア更新	66																																						
		メモリカード上のイメージの表示	67																																						
		スクリーンショット	67																																						

スクリーンショットのキャプチャ	68
コンピュータへのスクリーンショットのコピ	
ー	68
トラブルシューティング	68
デバイスで GPS 信号を受信できな	
い	68
デバイスの電源がオンにならない、また	
は繰り返しオフになる	68
デバイスで正しい位置のウェイポイントが	
作成されない	69
仕様	70
仕様	70
開始画像の推奨サイズ	71

はじめに

△ 警告

製品に関する警告およびその他の重要な情報については、製品パッケージに同梱されている「安全および製品に関する警告と注意事項」を参照してください。

チャートプロッターに表示されるルートとナビラインはすべて、一般的なルートガイドを提供したり、適切な航路を特定したりすることのみを目的としたものであり、厳密にたどることを目的としたものではありません。船舶の破損、人体への負傷および死亡事故を招く恐れがある座礁や危険物を回避するため、ナビゲーション時は必ずナビエイドと水上の状況に従ってください。

注意: モデルによっては使用できない機能もあります。

Garmin®の Web サイト(support.garmin.com)にはお使いの製品に関する最新情報が示されています。サポートページにはサポートの FAQ に対する回答が掲載され、ソフトウェアやチャートの更新ファイルをダウンロードできます。またご質問がある場合の Garmin サポートへの連絡情報も掲載されています。

正面



①	電源キー
②	デバイスキュー
③	microSD®メモリカードスロット

デバイスキー

	長押しすると、デバイスの電源オン／オフが切り替わります。 すばやく押したり放したりすると、ショートカットメニューが開きます。 繰り返し押すと、輝度レベルがスクロールされます。
	縮小します。
	拡大します。
HOME	ホーム画面を開きます。 長押しすると、スクリーンショットが撮影されます。 ¹
MENU	該当する場合は、ページのオプションメニューを開きます。
	スクロール、オプションの強調表示、およびカーソルの移動を行います。
SELECT	強調表示されたオプションを選択します。
BACK	前の画面に戻ります。
MARK	現在位置をウェイポイントとして保存します。 長押しすると、MOB(落水)位置がマークされます。

コネクタ側



①	POWER	電源ケーブルポート
②	XDCR	4 ピン振動子ケーブルポート

¹ この機能を使用するには microSD メモリーカードが必要です (メモリーカードを挿入する, 4 ページ)。

ヒントとショートカット

- ⌂を押して、チャートプロッターの電源を入れてください。
- どの画面でも、⌂を繰り返し押すと、輝度レベルを上下できます(可能な場合)。この機能は、画面が見えないほど輝度が低い場合に役立ちます。
- どの画面からでも HOME を選択すると、ホーム画面が開きます。
- MENU を選択し、その画面の追加設定を開きます。
- 必要に応じて、メニューを終了したら BACK を選択します。
- ⌂を押すと、バックライトの調整などの追加オプションが開きます。
- チャートプロッターをオフにするには、⌂を押し、電源 > システムをオフを選択するか、⌂をシステムをオフバーが完全に表示されるまで押したままにします(利用可能な場合)。
- チャートプロッターをスタンバイモードにするには、⌂を押し、電源 > ステーションをスリープにするを選択します(利用可能な場合)。

スタンバイモードを終了するには、⌂を選択します。

- 矢印がすべてのオプションが表示されていないことを示している場合は、表示された矢印キーを押して追加のオプションを表示します。
- 一部のメニュー ボタンでは、① ボタンを選択すると、オプションが有効になります。



オプションの緑色のライトは、そのオプションが有効であることを示します ②。

- 使用可能な場合は、… ③ を選択してメニューを開きます。

チャートプロッターのマニュアルにアクセスする

1 ⚙ > 操作マニュアルの順に選択します。

2 マニュアルを選択します。

3 開くを選択します。

Web からマニュアルにアクセス

Garmin の Web サイトから最新のマニュアルとマニュアルの翻訳入手できます。

1 garmin.com/manuals/echomapUHD2 にアクセスします。

2 [マニュアル]を選択します。

Web マニュアルが開きます。マニュアル全体をダウンロードするには、[PDF のダウンロード]を選択します。

Garmin サポートセンター

製品マニュアル、よく寄せられる質問(FAQ)、ビデオ、ソフトウェアの更新、カスタマーサポートなどのヘルプや情報については、support.garmin.com を参照してください。

メモリーカードを挿入する

ソフトウェアバージョン 34.00 より、このデバイスは速度クラス 10 以上の exFAT にフォーマットされた最大 1 TB の microSD メモリーカードに対応しています。

注意: 新しいメモリーカードをチャートプロッターに挿入すると、チャートプロッターは新しく追加されたカードにプライベート情報の書き込みを開始します。

- 1 アクセスフラップまたはチャートプロッターの前面にあるドア ① を開きます。



- 2 メモリーカード ② を完全に差し込みます。

- 3 ガスケットとドアを清掃し、乾燥させます。

注意

腐食を防ぐため、ドアを閉じる前にメモリーカード、ガスケット、ドアが完全に乾いていることを確認してください。

- 4 ドアを閉じます。

GPS 衛星信号を捕捉する

衛星信号を捕捉するために、デバイスには上空が開けていることが必要な場合があります。時刻と日付は、GPS の位置に基づいて自動的に設定されます。

- 1 デバイスの電源をオンにします。
- 2 デバイスが衛星の位置を受信するまで待ちます。

衛星信号の捕捉には、30~60 秒かかる場合があります。

GPS 衛星の信号強度を表示するには、⚙️ > システム > 衛星測位の順に選択します。

デバイスで衛星信号が失われると、チャートの船舶位置インジケータ(⌚)に点滅するクエスチョンマークが表示されます。

GPS の詳細については、garmin.com/aboutGPS を参照してください。衛星信号の受信方法については、「[デバイスで GPS 信号を受信できない](#)、68 ページ」を参照してください。

GPS ソースの選択

複数の GPS ソースがある場合、GPS データの優先するソースを選択できます。

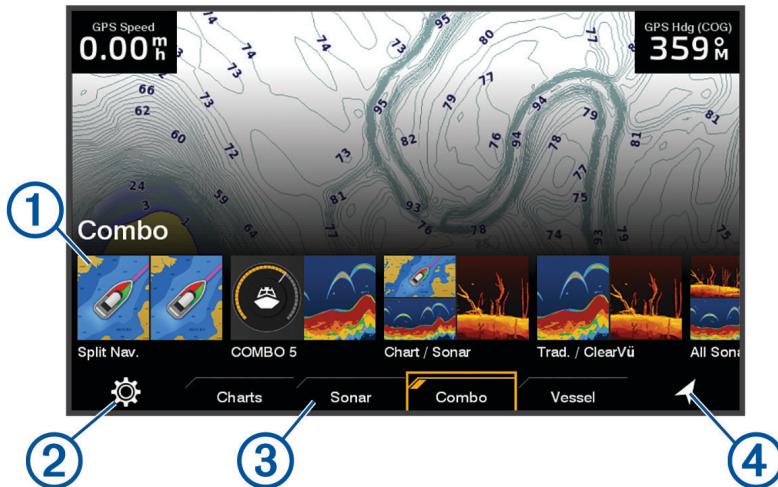
- 1 ⚙️ > システム > 衛星測位 > ソースの順に選択します。
- 2 GPS データのソースを選択します。

海図プロッタをカスタマイズする

メイン画面

ホーム画面は、チャートプロッターのすべての機能にアクセスできるオーバーレイです。これらの機能はチャートプロッターに接続されているアクセサリによって異なります。このマニュアルで説明する一部のオプションおよび機能を利用できない場合があります。

別の画面を表示しているときは、HOMEを選択するとメイン画面に戻ることができます。



①	機能ボタン
②	設定メニュー ボタン
③	カテゴリタブ
④	目的地メニューを開きます

カテゴリタブからチャートプロッターのメイン機能にすばやくアクセスできます。例えば、ソナータブは、ソナー機能に関連する表示や画面を示します。

ヒント: 使用可能なカテゴリタブを表示するには、矢印キーを使用してスクロールする必要があります。

カテゴリ項目の再配置

カテゴリ内の項目を再配置して、画面をカスタマイズできます。

- 1 地図など、カスタマイズするカテゴリを選択します
- 2 機能ボタンをハイライトします(ナビチャート、ナビチャートなど)。
- 3 SELECTボタンを押し続けます。
- 4 再配置するを選択します。
機能ボタンに矢印が表示されます。
- 5 移動するボタンを再度選択します。
- 6 矢印キーを使用して新しい位置をハイライトし、選択を解除します。
- 7 ボタンの新しい位置を選択します。
- 8 画面のカスタマイズが完了するまで繰り返します。
- 9 完了したら、BACKまたはホームを選択します。

ページ設定

組み合わせページをカスタマイズする

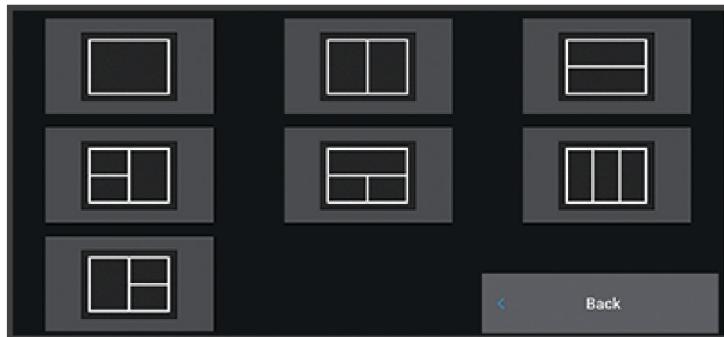
組み合わせページで表示されるレイアウトとデータをカスタマイズできます。

- 1 組み合わせを選択します。
- 2 カスタマイズする組み合わせページを選択します。
- 3 MENU > 組み合わせの編集を選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ 組み合わせページの名前を変更するには、名前を選択し、新しい名前を入力します。
 - ・ 表示されるレイアウトと機能の数を変更するには、レイアウトを選択し、オプションを選択します。
 - ・ 画面の一部の機能を変更するには、矢印キーを使用して変更するウィンドウを強調表示して、選択し、機能を選択します。
 - ・ 画面の分割方法を変更するには、組み合わせページを選択して、レイアウトサイズ変更を選択し、矢印キーを使用してサイズを調整します。
 - ・ ページに表示されるデータと追加のデータバーを変更するには、オーバーレイを選択し、オプションを選択します。
- 5 完了を選択します。

新しい組み合わせページを作成する

目的に応じてカスタムの組み合わせページを作成できます。

- 1 組み合わせ > 組み合わせを追加するの順に選択します。
- 2 ウィンドウを選択します。
- 3 ウィンドウの機能を選択します。
- 4 ページの各ウィンドウで、これらの手順を繰り返します。
- 5 レイアウトを選択し、レイアウトを選択します。



- 6 ページの名前を選択し、完了を選択します。
- 7 オーバーレイを選択して、表示するデータを選択します。
- 8 ページのカスタマイズが完了したら、完了を選択します。

組み合わせページを削除する

- 1 組み合わせを選択します。
- 2 削除する組み合わせページを強調表示します。
- 3 MENU を選択します。
- 4 組み合わせを削除する > はいを選択します。

データのオーバーレイをカスタマイズする

画面に表示されるデータオーバーレイでデータをカスタマイズできます。

- 1 表示している画面のタイプに基づいてオプションを選択します。
 - ・全画面表示で、**MENU > オーバーレイを編集する**を選択します。
 - ・組み合わせ画面で、**MENU > 組み合わせの編集 > オーバーレイ**を選択します。
- 2 データおよびデータバーをカスタマイズする項目を選択します。
 - ・データオーバーレイを表示するには、**データ**を選択し、場所を選択して、**BACK**を選択します。
 - ・オーバーレイボックスに表示されるデータを変更するには、オーバーレイボックスを選択し、表示する新しいデータを選択して、**BACK**を選択します。
 - ・ナビゲーション中に表示される情報をカスタマイズするには、**ナビゲーション**を選択し、オプションを選択します。
 - ・その他のデータバーをオンにするには、**一番上のバー**、**下部バー**、**左側バー**、または**右側バー**を選択し、必要なオプションを選択します。
- 3 完了を選択します。



バックライトを調整する

- 1 **⚙️ > システム > サウンドおよび表示 > バックライト** の順に選択します。

- 2 バックライトを調整します。

ヒント: どの画面でも、**⌚** を繰り返し押すことで、輝度レベルを上下することができます。この機能は、画面が見えないほど輝度が低い場合に役立ちます。

表示モードを調整する

- 1 **⚙️ > システム > サウンドおよび表示 > デザイン** の順に選択します。

ヒント: 任意の画面で **⌚ > デザイン** を選択して、色の設定にアクセスします。

- 2 オプションを選択します。

カラーテーマを調整する

ほとんどのチャートプロッター画面で使用される強調表示とアクセントの色を変更できます。

- 1 **⚙️ > システム > サウンドおよび表示 > カラーテーマ** の順に選択します。

- 2 オプションを選択します。

チャートプロッターの電源を自動的にオンにする

電源が投入されたときに自動的にオンになるようにチャートプロッターを設定できます。それ以外の場合は、**⌚** を押してチャートプロッターをオンにする必要があります。

⚙️ > システム > 自動電源オン の順に選択します。

注意: 自動電源オンがオンの場合に、**⌚** を使用してチャートプロッターをオフにし、2分以内に電源を停止して再投入するときは、**⌚** を押さないとチャートプロッターが再起動されないことがあります。

システムの電源を自動的にオフにする

システム全体が指定した時間スリープになった後、チャートプロッターとシステム全体の電源を自動的にオフにするよう設定できます。このように設定しない場合は、**⌚** を押して手動でシステムの電源をオフにする必要があります。

- 1 **⚙️ > システム > 自動電源オフ** の順に選択します。

- 2 オプションを選択します。

スタートアップ画面をカスタマイズする

チャートプロッターの電源をオンにしたときに表示される画像をカスタマイズできます。最適なサイズにするには、画像を推奨サイズ ([開始画像の推奨サイズ](#), 71 ページ)に準拠した 50 MB 以下にする必要があります。

- 1 使用する画像が記録されたメモリーカードを挿入します。
- 2  > システム > サウンドおよび表示 > 開始画像 > 画像を選択するの順に選択します。
- 3 メモリーカードスロットを選択します。
- 4 画像を選択します。
- 5 起動時の画像として設定を選択します。

チャートプロッターをオンにすると、新しい画像が表示されます。

ActiveCaptain® アプリ

⚠️ 警告

この機能により、ユーザーは情報を送信できます。Garmin は、ユーザーによって送信された情報の正確性、完全性、または適時性についていかなる表明も行いません。ユーザーによって送信された情報を使用したり信用したりすることは、お客様ご自身の責任になります。

ActiveCaptain アプリは、ECHOMAP UHD2 プロッター、地図、チャート、ActiveCaptain コミュニティへの接続を提供し、コネクテッドな船舶体験を提供します。

ActiveCaptain アプリを搭載したモバイルデバイスでは、地図／チャートをダウンロード、購入、更新できます。このアプリを使用すると、ウェイポイントやルートなどのユーザーデータを簡単かつ迅速に転送したり、Garmin Quickdraw™ Contours コミュニティに接続してデバイスソフトウェアを更新したり、旅行の計画を立てたりすることができます。

ActiveCaptain の役割

ActiveCaptain アプリを使用して ECHOMAP UHD2 デバイスを操作できるレベルは、役割によって異なります。

機能	オーナー	ゲスト
アカウントにデバイス、内蔵地図、補足地図カードを登録します	はい	いいえ
ソフトウェアの更新	はい	はい
ダウンロードまたは作成した Garmin Quickdraw 等高線を自動的に転送します	はい	いいえ
ウェイポイントやルートなどのユーザーデータを自動的に転送します	はい	いいえ
特定のウェイポイントへのナビゲーションまたは特定のルートのナビゲーションを開始し、そのウェイポイントまたはルートを ECHOMAP UHD2 デバイスに送信します。	はい	はい

ActiveCaptain アプリの操作手順

ActiveCaptain アプリを使用して、モバイルデバイスを ECHOMAP UHD2 デバイスに接続できます。このアプリでは、ECHOMAP UHD2 デバイスを操作して、データの共有、登録、デバイスソフトウェアの更新など、作業をすばやく簡単に完了できます。

- 1 ECHOMAP UHD2 デバイスから、船 > ActiveCaptain の順に選択します。
- 2 ActiveCaptain ページから、Wi-Fi ネットワーク > Wi-Fi > オンの順に選択します。
- 3 このネットワークの名前とパスワードを入力します。
- 4 ECHOMAP UHD2 デバイスのカードスロットにメモリーカードを挿入します ([メモリーカードを挿入する](#), 4 ページ)。
- 5 ActiveCaptain カードの設定を選択します。

注意

メモリーカードのフォーマットを求めるメッセージが表示されることがあります。カードをフォーマットすると、カードに保存されているすべての情報が削除されます。これには、保存されたユーザーデータ（ウェイポイントなど）が含まれます。カードのフォーマットは推奨されますが、必須ではありません。カードをフォーマットする前に、メモリーカードのデータをデバイスの内部メモリに保存することをお勧めします（[メモリーカードからのデータのコピー](#), 61 ページ）。ActiveCaptain アプリ用にカードをフォーマットしたら、ユーザーデータをカードに戻すことができます（[メモリーカードへの全ユーザーデータのコピー](#), 62 ページ）。

注意：チャートプロッターでメモリーカードをフォーマットすると、形式タイプが保持され、変更できません。例えば、カード形式を FAT32 から exFAT に変更する場合は、チャートプロッターでカードを使用する前に、コンピュータまたはその他のデバイスを使用してその変更を行なう必要があります。

ActiveCaptain 機能を使用するときは毎回、カードが挿入されていることを確認してください。

- 6 モバイルデバイスのアプリケーションストアから、ActiveCaptain アプリをインストールして開きます。
ヒント：モバイルデバイスを使用してこの QR コードをスキャンし、アプリをダウンロードできます。
- 7 モバイルデバイスを ECHOMAP UHD2 デバイスの 32 m(105 ft.) 以内の範囲に持ち込みます。
- 8 モバイルデバイスの設定から Wi-Fi® 接続ページを開き、手順 3 で入力した名前とパスワードを使用して ECHOMAP UHD2 デバイスに接続します。



ActiveCaptain アプリでのソフトウェアの更新

デバイスに Wi-Fi テクノロジーが搭載されている場合、ActiveCaptain アプリを使用して、デバイスの最新ソフトウェア更新をダウンロードし、インストールすることができます。

注意

ソフトウェアの更新では、大きなファイルをダウンロードするアプリが必要になることがあります。通常のデータ制限や料金がインターネットサービスプロバイダから適用されます。データ制限や料金の詳細については、インターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

インストール処理には数分かかる場合があります。

- 1 モバイルデバイスを ECHOMAP UHD2 デバイスに接続します ([ActiveCaptain アプリの操作手順](#), 9 ページ)。
- 2 ソフトウェア更新が利用可能で、モバイルデバイスでインターネットにアクセスできる場合は、**ソフトウェアアップデート** の > **ダウンロード** を選択します。
ActiveCaptain アプリはモバイルデバイスに更新をダウンロードします。アプリを ECHOMAP UHD2 デバイスに再接続すると、更新がデバイスに転送されます。転送が完了すると、更新のインストールを求めるメッセージが表示されます。
- 3 ECHOMAP UHD2 デバイスでプロンプトが表示されたら、更新をインストールするオプションを選択します。
 - すぐにソフトウェアを更新するには、**OK** を選択します。
 - 更新を遅らせるには、**キャンセル** を選択します。更新をインストールする準備ができたら、**ActiveCaptain > ソフトウェアアップデート** > **今すぐ更新** を選択します。

注意：機能を最大限に活用するには、デバイスのソフトウェアを最新の状態に維持する必要があります。ソフトウェアの更新により、プライバシー、セキュリティ、および機能の変更と改善が行われます。

ActiveCaptain を使用してチャートを更新する

注意: チャートは、更新する前に登録する必要があります (ActiveCaptain アプリの操作手順, 9 ページ)。

ActiveCaptain アプリを使用して、デバイスに最新のチャート更新をダウンロードおよび転送できます。ダウンロード時間を短縮し、ストレージ容量を節約するために、必要なチャートの領域のみをダウンロードできます。

チャートまたは領域を初めてダウンロードした後、ActiveCaptain を開くたびに更新が自動的に行われます。

チャート全体をダウンロードする場合は、Garmin Express™ アプリを使用して地図をメモリーカードにダウンロードできます (Garmin Express アプリを使用してチャートを更新する, 66 ページ)。Garmin Express アプリは ActiveCaptain アプリよりも高速に大きなチャートをダウンロードします。

注意

チャートを更新するには、大きなファイルをダウンロードするアプリが必要になる場合があります。通常のデータ制限や料金がインターネットサービスプロバイダから適用されます。データ制限や料金の詳細については、インターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

- 1 モバイルデバイスでインターネットにアクセスできる場合、チャート >  > チャートのダウンロードの順に選択します。
- 2 ダウンロードするエリアを選択します。
- 3 ダウンロードを選択します。
- 4 必要に応じて更新する地図を選択します。

ActiveCaptain アプリはモバイルデバイスに更新をダウンロードします。アプリを ECHOMAP UHD2 デバイスに再接続すると、更新はそのデバイスに転送されます。転送が完了すると、更新されたチャートが使用可能になります。

チャートのサブスクリプション

チャートのサブスクリプションを使用すると、ActiveCaptain モバイルアプリを使用して、最新のチャート更新および追加コンテンツにアクセスできます。更新されたチャートとコンテンツを毎日ダウンロードできます。

ActiveCaptain モバイルアプリを使用して、チャートのサブスクリプションを購入、有効化、および更新できます (詳細なチャート, 12 ページ)。

ワイヤレス共有

ECHOMAP UHD2 5/7 cv デバイスを別の ECHOMAP UHD2 デバイスまたは ECHOMAP Ultra 2 デバイスにワイヤレス接続して、ユーザーデータとソナーを共有できます (2 台の互換性のある ECHOMAP デバイスを接続してユーザーデータとソナーを共有する, 11 ページ)。ワイヤレスネットワーク設定を初めて開く場合は、ホストデバイスでワイヤレスネットワークを設定するよう求めるメッセージが表示されます。ネットワークを設定した後、デバイスをスマートフォンなどの他のワイヤレスデバイスに接続して、ActiveCaptain アプリを使用することもできます (ActiveCaptain アプリの操作手順, 9 ページ)。

注意: 接続された互換性のある ECHOMAP デバイスが両方ともソフトウェアバージョン 41.00 以降の場合は、一方のデバイスでソフトウェア更新を実行すると、接続されているもう一方のデバイスが自動的に更新されます。各デバイスを個別に更新する必要はありません。

Wi-Fi ネットワークの設定

このデバイスは、別のチャートプロッターやスマートフォンなどのワイヤレスデバイスを接続する Wi-Fi ネットワークをホストできます。ワイヤレスネットワーク設定に初めてアクセスする場合は、ネットワークを設定するよう求めるメッセージが表示されます。

- 1  > 通信 > Wi-Fi ネットワーク > Wi-Fi > オン > OK の順に選択します。
- 2 必要に応じて、このワイヤレスネットワークの名前を入力します。
- 3 パスワードを入力します。

このパスワードは、スマートフォンなどのワイヤレスデバイスからワイヤレスネットワークにアクセスするために必要です。パスワードは大文字と小文字が区別されます。

2台の互換性のある ECHOMAP デバイスを接続してユーザーデータとソナーを共有する

ECHOMAP UHD2 5/7 cv デバイスを別の ECHOMAP UHD2 デバイスまたは ECHOMAP Ultra 2 デバイスに接続して、ユーザーデータとソナーをワイヤレスで共有できます。

ユーザーデータは、接続中に2台のデバイス間で自動的に共有されます。ソナー共有では、ソナーソースを選択する必要があります（[ソナー共有, 11 ページ](#)）。

2台のデバイスを接続するには、一方のデバイスをホストとして、もう一方のデバイスをクライアントとして指定する必要があります。一度に接続できるのは、2台の互換性のある ECHOMAP デバイスのみです。ホストデバイスは、クライアントデバイスに接続されている間、スマートフォンやタブレットなどの他のワイヤレスデバイスに接続できます。

注意: ECHOMAP UHD2 6/7/9 sv または ECHOMAP Ultra 2 デバイスは、ホストデバイスとして設定された ECHOMAP UHD2 5/7 cv に接続できません。この状況では、ECHOMAP UHD2 6/7/9 sv または ECHOMAP Ultra 2 デバイスをホストとして設定する必要があります。

- 1 2台の互換性のある ECHOMAP デバイスが 32 m(105 ft.) の範囲内であることを確認し、両方のデバイスをオンにします。
- 2 ネットワークをホストしている互換性のある ECHOMAP デバイスで、Wi-Fi ネットワークを設定します ([Wi-Fi ネットワークの設定, 10 ページ](#))。
- 3 互換性のある ECHOMAP ホストデバイスで、 > 通信 > Wi-Fi ネットワーク > Wi-Fi > オン > ホスト > チャートプロッターをペアリング > 開始の順に選択します。
- 4 互換性のある ECHOMAP クライアントデバイスで、 > 通信 > Wi-Fi ネットワーク > Wi-Fi > オン > クライアント > ホストをペアリング > 開始の順に選択します。
- 5 デバイスが正常に接続されたら、OK を選択します。

デバイスのペアリングを解除し、今後接続を試みないようにワイヤレス資格情報を削除するには、クライアントデバイスで、 > 通信 > Wi-Fi ネットワーク > 非ペアの順に選択します。

2台のデバイスを接続できない場合は、接続をトラブルシューティングして、もう一度試してください（[ワイヤレス接続のトラブルシューティング, 11 ページ](#)）。

ソナー共有

Wi-Fi ネットワーク経由で接続された 2台の互換性のある ECHOMAP デバイスは、ソナーを共有できます（[2台の互換性のある ECHOMAP デバイスを接続してユーザーデータとソナーを共有する, 11 ページ](#)）。

両方の ECHOMAP デバイスに振動子が接続されている場合、各デバイスは自動的に自身のソナーソースを使用します。ソナーソースは、手動で他のデバイスに切り替えることができます（[ソナーソースを選択する, 42 ページ](#)）。

1台の ECHOMAP デバイスにのみ振動子が接続されている場合は、そのデバイスが両方のデバイスのソナーソースになります。

ワイヤレス接続のトラブルシューティング

2台の互換性のある ECHOMAP デバイスをワイヤレス接続できない場合は、次の項目を確認して、もう一度試してください。

- ECHOMAP UHD2 6/7/9 sv または ECHOMAP Ultra 2 デバイスと ECHOMAP UHD2 5/7 cv デバイスを接続する場合は、ECHOMAP UHD2 6/7/9 sv または ECHOMAP Ultra 2 をネットワークホストとして設定する必要があります。ECHOMAP UHD2 6/7/9 sv または ECHOMAP Ultra 2 デバイスは、ホストとして設定された ECHOMAP UHD2 5/7 cv デバイスに接続できません。
- 2台のデバイスが範囲内(32 m(105 ft.))内にあることを確認します。
- デバイス間に、特に金属などの信号の障害物がないか確認します。
- デバイスの電源をオフにしてから再度オンにし、もう一度接続を試します。

チャートプロッタへのワイヤレスデバイスの接続

ワイヤレスデバイスをチャートプロッタワイヤレスネットワークに接続する前に、チャートプロッタワイヤレスネットワークを設定する必要があります（[Wi-Fi ネットワークの設定, 10 ページ](#)）。

複数のワイヤレスデバイスをチャートプロッタプロッタに接続してデータを共有することができます。

- 1 ワイヤレスデバイスから、Wi-Fi 技術を有効にし、ワイヤレスネットワークを検索します。
- 2 チャートプロッタワイヤレスネットワークの名前を選択します（[Wi-Fi ネットワークの設定, 10 ページ](#)）。
- 3 チャートプロッタのパスワードを入力します。

Wi-Fi ネットワークの管理

Wi-Fi ホストの変更

Wi-FiMarine Network に Garmin 技術を搭載した複数のチャートプロッターが存在する場合は、Wi-Fi ホストとなるチャートプロッターを変更できます。この機能は、Wi-Fi 通信に関する問題が発生する場合に役立ちます。Wi-Fi ホストを変更することで、モバイルデバイスに物理的により近いチャートプロッターを選択できます。

1  > 通信 > Wi-Fi ネットワーク > アドバンス設定 > Wi-Fi ホストの順に選択します。

2 画面に表示される手順に従います。

ワイヤレスチャンネルの変更

デバイスの検出またはデバイスへの接続で問題が発生する場合や、干渉が発生する場合は、ワイヤレスチャンネルを変更できます。

1  > 通信 > Wi-Fi ネットワーク > アドバンス設定 > チャンネルの順に選択します。

2 新しいチャンネルを入力します。

このネットワークに接続されているデバイスのワイヤレスチャネルを変更する必要はありません。

チャートおよび 3D チャート表示

利用できるチャートおよび 3D チャート表示は、使用されている地図データとアクセサリによって異なります。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、3D チャート表示を使用できます。

地図を選択して、チャートおよび 3D チャート表示にアクセスできます。

ナビチャート: 事前にロードされている地図上で、および利用可能であれば補助地図から、利用可能なナビゲーションデータを表示します。データには、俯瞰表示でのブイ、信号、ケーブル、深度測深値、マリーナ、および潮汐観測点が含まれます。

釣用地図: 海図上の底の等高線および深度測深値の詳細なビューを提供します。このチャートでは、海図からナビゲーションデータが削除され、詳細な等深線データが示されており、深度認識のための底の等高線が拡張されています。このチャートは、沖合いの深海での釣りに最適です。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、釣りチャートを使用できます。

パースペクティブ 3D: 船舶の上方から、および背後を(経路に沿って)表示し、視覚的なナビゲーションエイドを提供します。このビューは難しい浅瀬、岩礁、橋、または水路などのナビゲーションに役立ち、不慣れな港や係留地へ出入りするルートを特定する際に有用です。

3D チャート: 船舶の上方から、および背後を(経路に沿って)3 次元で詳細に表示し、視覚的なナビゲーションエイドを提供します。このビューは難しい浅瀬、岩礁、橋、または水路などのナビゲーション、そして不慣れな港へ出入りするルートや投錨の特定に便利です。

フィッシュアイ 3D: チャートの情報に基づいて海底を視覚的に表した水面下のビューを提供します。ソナー変換器が接続されている場合、停まっているターゲット(魚など)は赤色、緑色、および黄色で示されます。赤色は最も大きいターゲットを示し、緑色は最も小さいターゲットを示します。

地形陰影: 湖や沿岸の水域の高解像度の起伏図を提供します。このチャートは釣りやダイビングに役立ちます。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、地形陰影チャートを使用できます。

詳細なチャート

このチャートプロッターは、最新の Garmin Navionics+™ 地図や追加のプレミアムチャート機能と互換性があります。これらのチャートは、次の 3 つの方法で入手できます：

- 詳細なチャートをロード済みのチャートプロッターを購入できます。
- メモリーカードのチャート領域は、Garmin 販売店、または garmin.com から購入できます。
- ActiveCaptain アプリでチャート領域を購入し、チャートプロッターにダウンロードできます。

注意: チャートプロッターの全チャート機能にアクセスするには、ActiveCaptain アプリを使用してロード済みチャートまたはメモリーカードで購入したチャートを有効にする必要があります。

船舶用チャートサブスクリプションの有効化

デバイスにロード済みのチャート Garmin Navionics+またはメモリーカードで購入したチャートの全機能を使用するには、ActiveCaptain アプリを使用してサブスクリプションを有効化する必要があります。

サブスクリプションでは、購入に含まれている最新のチャート更新や追加コンテンツを利用できます。

- 1 メモリーカードのチャートを購入した場合は、チャートプロッターまたは Garmin メモリーカードリーダーのメモリーカードスロットにカードを挿入します。
- 2 モバイルデバイスで ActiveCaptain アプリを開き、チャートプロッターに接続します ([ActiveCaptain アプリの操作手順, 9 ページ](#))。
- 3 ActiveCaptain アプリがチャートプロッターに接続したら、モバイルデバイスがインターネットに接続されていることを確認します。
- 4 ActiveCaptain アプリで、**チャート > ≡ > マイチャート** の順に選択し、チャートの有効なサブスクリプションがリストに表示されていることを確認します。
- 5 必要に応じて、ActiveCaptain アプリをチャートプロッターに接続して、有効化プロセスを完了します。

ActiveCaptain アプリをインターネットに接続してからチャートプロッターに接続すると、自動的にサブスクリプションが有効になります。ActiveCaptain アプリはマイチャートリストにサブスクリプションのステータスを表示します。

注意: 新しいサブスクリプションの確認には数時間かかる場合があります。

ActiveCaptain でのチャートサブスクリプションの購入

- 1 モバイルデバイスをインターネットに接続し ActiveCaptain アプリを開きます。
- 2 **チャート > ≡ > マイチャート > チャートサブスクリプションを追加する** の順に選択します。
- 3 チャートを選択します。
- 4 **今すぐご登録ください** を選択します。

注意: 新しいサブスクリプションの表示には数時間かかる場合があります。

サブスクリプションの更新

お客様の地図のサブスクリプションは 1 年後に期限が切れます。サブスクリプションの有効期限が切れた後でも、ダウンロードしたチャートを引き続き使用することはできますが、最新のチャート更新や追加コンテンツをダウンロードすることはできません。

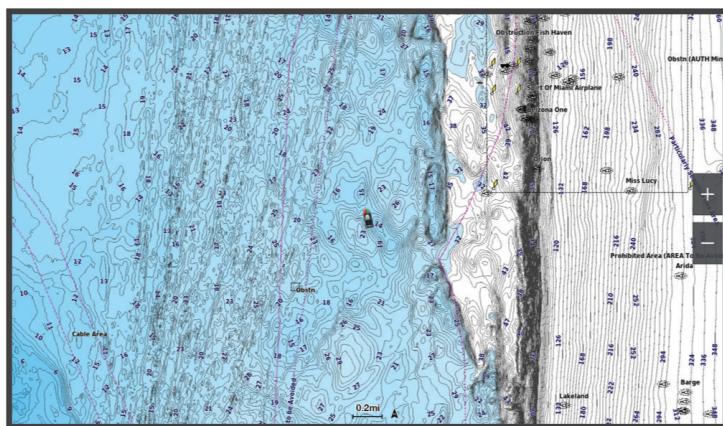
- 1 モバイルデバイスをインターネットに接続し、ActiveCaptain アプリを開きます。
- 2 **チャート > ≡ > マイチャート** の順に選択します。
- 3 更新するチャートを選択します。
- 4 **今すぐ更新** を選択します。

注意: 更新後のサブスクリプションの表示には数時間かかる場合があります。

ナビゲーションチャートとの釣りチャート

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、釣りチャートを使用できます。

ナビチャートは、ナビゲーション用に最適化されています。コースの計画や、地図情報の表示を行ったり、ナビゲーションの補助としてチャートを使用したりできます。ナビチャートを開くには、**地図 > ナビチャート**を選択します。



釣用地図には、海底の細部や釣りの内容が詳しく表示されます。このチャートは、釣りでの利用を想定して最適化されています。釣用地図を開くには、**地図 > 釣用地図**を選択します。

チャートの記号

次の表に、詳細なチャートに表示されることがある一般的な記号をいくつか示します。

アイコン	説明
닻	ブイ／浮標
◆ i	情報
◆ S	海洋サービス
◆ T	潮汐観測点
◆ C	潮流予報点
カメラ	俯瞰写真が利用可能
△ カメラ	全体写真が利用可能

大半のチャートに共通するその他の機能には、深度等高線、潮間帯ゾーン、地点測深値(元々の紙チャート上で描かれるものと同様)、ナビゲーションエイドと記号、障害物、およびケーブルエリアなどがあります。

チャートをズームインまたはズームアウトする

ズームレベルは、チャートの下部のスケール番号で示されます。スケール番号の下のバーは、チャート上の距離を表します。

- 縮小するには、ーを選択します。
- ズームインするには、+を選択します。

キーを使用してチャートを回転させる

チャートを移動して、現在の場所以外の地域を表示できます。

- 1 チャートから、矢印キーを使用します。
- 2 回転を停止して、画面を現在の場所に戻すには、**BACK** を選択します。
注意: 組み合わせ画面から回転させるには、**SELECT** を選択します。

デバイスキーを使用して地図上のアイテムを選択する

- 1 チャートまたは 3D チャートビューで、◀、▶、▼、または ▲ を選択して、カーソルを移動します。
- 2 **SELECT** を選択します。

チャート上で距離を測定する

- 1 チャートで、特定の位置を選択します。

- 2 測定を選択します。

画面上の現在の位置にピンが表示されます。ピンからの距離と角度が隅に表示されます。

ヒント: ピンとカーソルの現在の位置からの測定値をリセットするには、環境設定を選択します。

チャート上でウェイポイントを作成する

- 1 チャートから、位置またはオブジェクトを選択します。

- 2 ウェイポイントを作成します。を選択します。

チャート上で位置とオブジェクトの情報を表示する

潮汐、潮流、天体、チャート記録、またはローカルサービスなど、ナビゲーションチャートまたは釣りチャート上の位置やオブジェクトに関する情報を表示できます。

- 1 ナビゲーションチャートまたは釣りチャートから、位置またはオブジェクトを選択します。
オプションのリストが表示されます。表示されるオプションは、選択した位置またはオブジェクトによって異なります。
- 2 インフォメーションを選択します。

ナビエイドに関する詳細を表示する

ナビゲーションチャート、釣りチャート、Perspective 3D チャートビュー、または Mariner's Eye 3D チャートビューから、立標、信号、および障害物などのさまざまなタイプのナビゲーションエイドの詳細を表示できます。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、釣りチャートを使用できます。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、3D チャート表示を使用できます。

- 1 チャートまたは 3D チャートビューから、ナビエイドを選択します。

- 2 ナビエイドの名前を選択します。

チャート上のポイントにナビゲーションする

△ 警告

チャートプロッターに表示されるルートとナビラインはすべて、一般的なルートガイダンスを提供したり、適切な航路を特定したりすることのみを目的としたものであり、厳密にたどることを目的としたものではありません。船舶の破損、人体への負傷および死亡事故を招く恐れがある座礁や危険物を回避するため、ナビゲーション時は必ずナビエイドと水上の状況に従ってください。

Auto Guidance 機能は、電子的な海図情報に基づいています。このデータは、障害物や海底の状況について、内容を保証するものではありません。表示される航路と目視による情報をすべて慎重に比較して、陸地、浅瀬、進路上のその他の障害物を避けるようにしてください。

Go To 機能を使用する場合、直線の航路や補正された航路が、陸地や浅瀬を横切っていることもあります。目視の情報に基づいて操船し、陸地、浅瀬、その他の危険な障害物を避けるようにします。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、釣りチャートを使用できます。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、Auto Guidance を使用できます。

1 ナビゲーションチャートまたは釣りチャートから、位置を選択します。

2 必要に応じて、ナビ開始を選択します。

3 次の中からオプションを選択します。

- 選択した位置に直接ナビゲーションするには、**開始**またはを選択します。
- 選択した位置までの方向転換を含めたルートを作成するには、**ルートへ**またはを選択します。
- Auto Guidance を使用するには、**Auto Guidance** またはを選択します。

4 ピンクの線で示されたコースを確認します ([ルートカラーコーディング](#), 26 ページ)。

注意: Auto Guidance を使用している場合、マゼンタのラインの一部でグレーになっている部分は、Auto Guidance がそのラインの一部を計算できないことを表しています。この現象が発生する原因是、安全と判断するために指定された最低限の水深と障害物の高さにあります。

5 ピンクの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。

プレミアムチャート機能

⚠️ 警告

チャートプロッターに表示されるルートとナビラインはすべて、一般的なルートガイダンスを提供したり、適切な航路を特定したりすることのみを目的としたものであり、厳密にたどることを目的としたものではありません。船舶の破損、人体への負傷および死亡事故を招く恐れがある座礁や危険物を回避するため、ナビゲーション時は必ずナビエイドと水上の状況に従ってください。

Auto Guidance 機能は、電子的な海図情報に基づいています。このデータは、障害物や海底の状況について、内容を保証するものではありません。表示される航路と目視による情報をすべて慎重に比較して、陸地、浅瀬、進路上のその他の障害物を避けるようにしてください。

注意: すべてのモデルがすべてのチャートをサポートするわけではありません。

Garmin Navionics Vision+などのオプションのプレミアムチャートでは、チャートプロッターを最大限に活用できます。プレミアムチャートには、詳細な海図に加えて、一部のエリアで使用できる次の機能が含まれている場合があります。

注意: すべてのプレミアムチャート機能が購入後すぐに利用できるわけではありません。すべてのプレミアム機能にアクセスできるようになる前に、チャートのサブスクリプションを有効にし、ActiveCaptain アプリを使用して特定の機能のダウンロードを選択する必要があります ([船舶用チャートサブスクリプションの有効化](#), 13 ページ)。

Mariner's Eye 3D: 3D ナビゲーションエイドのために、船舶の上および後ろからのビューを提供します。

Fish Eye 3D: チャートの情報に基づいて海底を視覚的に表した水面下の 3D ビューを提供します。

釣りチャート: ナビゲーションデータなしに、海底の詳細な等高線が記載されたチャートを表示します。このチャートは、沖合いの深海の魚を対象にした釣りに最適です。

高解像度の衛星イメージ: 陸地や海上のリアルな表示のために高解像度の衛星イメージをナビゲーションチャートに提供します ([ナビゲーションチャートに衛星イメージを表示する](#), 19 ページ)。

航空写真: マリーナの航空写真とその他の航行に関して重要な航空写真を表示して、周辺地域を視覚化します ([ランドマークの航空写真を表示する](#), 19 ページ)。

詳細な道路および POI データ: 詳細な道路および主要ポイント(POI)のデータを表示します。このデータには、非常に詳細な沿岸道路とレストラン、宿泊施設、地元の観光スポットなどの POI が含まれます。

Auto Guidance: 指定された船舶に関する情報およびチャートデータを使用して、目的地までの最適な経路を決定します。

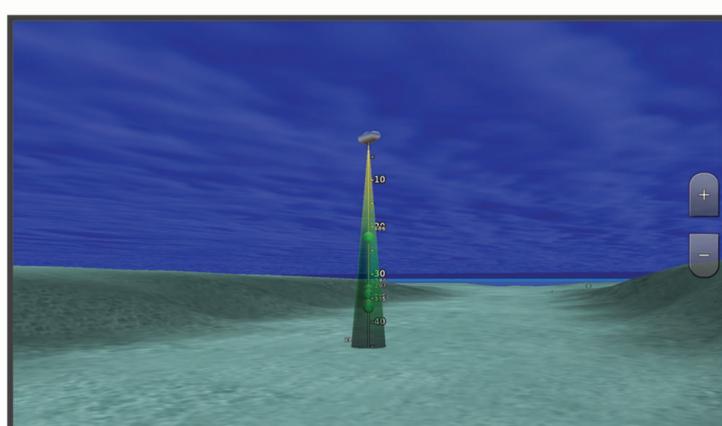
ソナー画像: ソナー画像を表示して、海底の密度の表示に利用します。

地形陰影: 海底の傾斜を影付きで表示します。

フィッシュアイ 3D チャートビュー

Garmin Navionics Vision+などのプレミアムチャートの深度等高線を使用して、フィッシュアイ 3D チャートビューでは海底や湖底の水中ビューを提供します。

魚などの浮遊ターゲットは、赤、緑、黄色の球体で示されます。赤色は最も大きいターゲットを示し、緑色は最も小さいターゲットを示します。



潮汐観測点情報を表示する

⚠ 警告

潮汐および潮流の情報は情報提供のみを目的としています。掲載されているすべての水に関するガイドに留意し、周囲の状況を常に把握し、水中、水上、および周囲で常に安全な判断を行うことはお客様の義務です。この警告に従わないと、物的損害、重傷、または死亡につながるおそれがあります。

チャート上の  アイコンは、潮汐観測点を示します。潮汐観測点の詳細なグラフを表示して、さまざまな時刻または異なる日付の潮位を予測できます。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、この機能を使用できます。

1 ナビゲーションチャートまたは釣りチャートから潮汐観測点を選択します。

潮流の方向と潮位の情報は、 の近くに表示されます。

2 観測点の名前を選択します。

アニメーション化された潮汐と潮流のインジケータ

⚠ 警告

潮汐および潮流の情報は情報提供のみを目的としています。掲載されているすべての水に関するガイドに留意し、周囲の状況を常に把握し、水中、水上、および周囲で常に安全な判断を行うことはお客様の義務です。この警告に従わないと、物的損害、重傷、または死亡につながるおそれがあります。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、この機能を使用できます。

アニメーション化された潮汐観測点と潮流方向のインジケータをナビゲーションチャートまたは釣りチャートに表示できます。また、アニメーション化されたアイコンをチャートの設定で有効にする必要があります ([潮汐と潮流のインジケータを表示する](#), 18 ページ)。

潮汐観測点のインジケータは、矢印の付いた縦棒グラフとしてチャートに表示されます。下を向いた赤い矢印は下げ潮を示し、上を向いた青い矢印は上げ潮を示します。潮汐観測点のインジケータ上にカーソルを移動すると、その観測点での潮位がインジケータの上に表示されます。

潮流方向のインジケータは、矢印としてチャートに表示されます。各矢印の方向は、チャート上の特定の位置の潮流方向を示します。潮流の矢印の色は、その位置の潮流速度の範囲を示します。潮流方向のインジケータ上にカーソルを移動すると、その位置での特定の潮流速度がインジケータの上に表示されます。

色	潮流速度の範囲
黄	0~1 ノット
橙	1~2 ノット
赤	2 ノット以上

潮汐と潮流のインジケータを表示する

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、この機能を使用できます。

静的なまたはアニメーション化された潮汐および潮流予報点のインジケータをナビゲーションチャートまたは釣りチャートに表示できます。

1 ナビゲーションチャートまたは釣りチャートから、MENU > レイヤー > チャート > 潮汐と潮流の順に選択します。

2 次の中からオプションを選択します。

- アニメーション化された潮汐観測点のインジケータとアニメーション化された潮流方向のインジケータをチャートに表示するには、**アニメ化**を選択します。
- 潮汐と潮流のスライダを有効にして、潮汐と潮流を地図が報告される時刻を設定するには、**スライダー**を選択します。

ナビゲーションチャートに衛星イメージを表示する

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、この機能を使用できます。

高解像度の衛星イメージをナビゲーションチャートの陸地部分、または陸地および海洋部分の両方にオーバーレイできます。

注意: 高解像度の衛星イメージは有効にされると、低いズームレベルでのみ表示されます。オプションのチャートエリアに高解像度のイメージが表示されない場合は、を選択すると、ズームインできます。また、地図ズームの詳細度を変更することにより、詳細度をより高くできます。

1 ナビゲーションチャートから、MENU > レイヤー > チャート > 衛星写真の順に選択します。

2 次の中からオプションを選択します。

- ・ 陸地に写真がオーバーレイされた、海洋の標準チャート情報を表示するには、**土地のみ**を選択します。

注意: Standard Mapping[®]チャートを表示するには、この設定を有効にする必要があります。

- ・ 海洋と陸地の写真を指定の不透過度で表示するには、**写真地図**を選択します。スライダバーを使用して、写真の不透過度を調整します。設定するパーセンテージが高くなればなるほど、陸地と海洋にオーバーレイされる衛星写真の不透過度が高くなります。

ランドマークの航空写真を表示する

ナビゲーションチャートに航空写真を表示する前に、チャート設定で写真のポイントの設定をオンにする必要があります (チャートのレイヤー, 20 ページ)。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、この機能を使用できます。

ランドマーク、マリーナ、ハーバーの航空写真を使用して、到着する前に周辺地域を把握したり、マリーナやハーバーの情報をることができます。

1 ナビゲーションチャートからカメラアイコンを選択します。

- ・ 頭上から見た写真を表示するには、を選択します。
- ・ 全体写真を表示するには、を選択します。写真是、コーンの方向に向けられたカメラの位置から撮影されています。

2 写真を選択します。

チャートメニュー

注意: すべての設定がすべてのチャートに適用されるわけではありません。一部のオプションでは、プレミアム地図、またはレーダーなどの接続されたアクセサリが必要です。

注意: メニューには、インストール済みのチャートや現在地でサポートされていない設定が含まれている場合があります。これらの設定を変更しても、その変更はチャートビューに影響しません。

チャートから、MENU を選択します。

レイヤー: チャート上の異なるアイテムの外観を調整します (チャートのレイヤー, 20 ページ)。

Quickdraw Contours: 海底の等高線の描画をオンにし、漁場地図ラベルを作成できるようにします (Garmin QuickdrawContours マッピング, 23 ページ)。

設定: チャート設定を調整します (チャート設定, 22 ページ)。

オーバーレイを編集する: 画面に表示されるデータを設定します (データのオーバーレイをカスタマイズする, 7 ページ)。

チャートのレイヤー

チャートのレイヤーをオン／オフにしたり、チャートの機能をカスタマイズできます。各設定は、使用するチャートまたはチャートビューに固有です。

注意: すべての設定がすべてのチャートおよびチャートプロッタモデルに適用されるわけではありません。一部のオプションでは、プレミアム地図または接続されたアクセサリが必要です。

注意: メニューには、インストール済みのチャートまたは現在の位置でサポートされていない設定が含まれている場合があります。これらの設定を変更しても、変更はチャートビューには影響しません。

チャートから、**MENU > レイヤー** の順に選択します。

チャート: チャート関連アイテムを表示／非表示にします ([チャートレイヤー設定, 20 ページ](#))。

船舶設定: 船舶関連アイテムを表示／非表示にします ([マイベッセルレイヤー設定, 20 ページ](#))。

ユーザーデータを管理する: ウェイポイント、境界、トラックなどのユーザーデータを表示／非表示にしたり、ユーザーデータのリストを開きます ([ユーザーデータレイヤー設定, 21 ページ](#))。

水: 深度アイテムを表示／非表示にします ([ウォーターレイヤー設定, 21 ページ](#))。

Quickdraw Contours: Garmin Quickdraw 等深線データを表示／非表示にします ([Garmin Quickdraw 等深線の設定, 25 ページ](#))。

チャートレイヤー設定

チャートから、**MENU > レイヤー > チャート** の順に選択します。

衛星写真: 特定のプレミアム地図を使用する場合に、高解像度の衛星イメージをナビゲーションチャートの陸地部分または陸地および海洋部分の両方に表示します ([ナビゲーションチャートに衛星イメージを表示する, 19 ページ](#))。

注意: Standard Mapping チャートを表示するには、この設定を有効にする必要があります。

潮汐と潮流: 潮流予報点のインジケータと潮汐観測点のインジケータをチャートに表示し ([潮汐と潮流のインジケータを表示する, 18 ページ](#))、潮汐と潮流のスライダを有効にして、地図上で潮汐と潮流が報告される時刻を設定します。

土地のPOI: 陸地のジャンル別施設を表示します。

航法支援施設: ATON や点滅ライトなど、ナビゲーションエイドをチャートに表示します。ナビエイドタイプ NOAA または IALA を選択できます。

サービスポイント: 海洋サービスの位置を表示します。

深度: 深度レイヤー上のアイテムを調整します ([深度レイヤー設定, 20 ページ](#))。

制限区域: チャートに制限区域に関する情報を表示します。

写真のポイント: 航空写真にカメラアイコンを表示します ([ランドマークの航空写真を表示する, 19 ページ](#))。

深度レイヤー設定

チャートから、**MENU > レイヤー > チャート > 深度** の順に選択します。

深度陰影表示: 上下の深度とその間の濃淡を指定します。

浅水域陰影表示: 海岸線から指定した深度までの濃淡を設定します。

スポット水深: 地点測深値をオンにし、危険深度を設定します。危険深度に等しい、または危険深度よりも浅いスポット深度は、赤いテキストで示されます。

漁場等深線: 海底の等高線の詳細ビューと深度測深値のズームレベルを設定し、地図表現をシンプルにして、釣り作業で使いやすくします。

マイベッセルレイヤー設定

チャートから、**MENU > レイヤー > 船舶設定** を選択します。

船首方位線: 地図上でボートの船首から進行方向に描画された線である誘導線を表示して調整し、誘導線のデータソースを設定します xxx。

船首方位線 > 船尾ライン: 船尾から進行方向の逆に延びる線を表示します。

有効航路: チャートにアクティブなトラックを表示し、有効航路オプションメニューを開きます。

コンパスローズ: 船舶を中心としたコンパス図を表示し、船舶の方向に向けられたコンパス方位を示します。

船アイコン: チャート上で自分の現在位置を表すアイコンを設定します。

ユーザーデータレイヤー設定

ユーザーデータ(ウェイポイント、境界、トラックなど)をチャートに表示できます。

チャートから、MENU > レイヤー > ユーザーデータを管理するの順に選択します。

ポイント: チャートにウェイポイントを表示し、ウェイポイントのリストを開きます。

境界: チャートに境界を表示し、境界のリストを開きます。

航跡: チャートにトラックを表示します。

ウォーターレイヤー設定

チャートで、MENU > レイヤー > 水の順に選択します。

注意: メニューには、インストール済みのチャートや現在地でサポートされていない設定が含まれている場合があります。これらの設定を変更しても、変更はチャートビューには影響しません。

注意: すべての設定がすべてのチャート、表示、チャートプロッターモデルに適用されるわけではありません。一部のオプションでは、プレミアム地図または接続されたアクセサリが必要です。

深度陰影表示: 上下の深度とその間の濃淡を指定します (深度範囲の濃淡、21 ページ)。

浅水域陰影表示: 海岸線から指定した深度までの濃淡を設定します。

スポット水深: 地点測深値をオンにし、危険深度を設定します。危険深度に等しい、または危険深度よりも深いスポット深度は、赤いテキストで示されます。

漁場等深線: 海底の等高線の詳細ビューと深度測深値のズームレベルを設定し、地図表現をシンプルにして、釣り作業で使いやすくなります。

地形陰影: 海底の傾斜を影付きで表示します。この機能は、一部のプレミアム地図のみで利用できます。

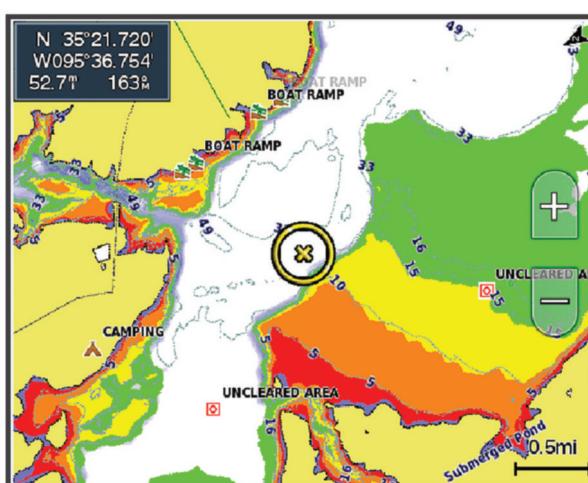
魚探画像: ソナー画像を表示して、海底の密度の表示に利用します。この機能は、一部のプレミアム地図のみで利用できます。

湖レベル: 湖の現在の水位を設定します。この機能は、一部のプレミアム地図のみで利用できます。

深度範囲の濃淡

地図上で、ターゲットの魚が現在かかっている水深を示す色の範囲を設定できます。より深い範囲を設定すると、特定の深度範囲内で底の深度がどのくらい速く変化するかを監視できます。最大 10 の深度範囲を作成できます。湖沼域の釣りに備えて、深度範囲が最大 5 つあるため、地図のクラッタを軽減できます。深度範囲は、すべてのチャートとすべての水域に適用されます。

一部の Garmin LakeVu™ とプレミアム補足チャートには、デフォルトで深度範囲の色分けがあります。



赤	0~1.5 m(0~5 ft.)
橙	1.5~3 m(5~10 ft.)
黄	3~4.5 m(10~15 ft.)
绿	4.5~6.1 m(15~20 ft.)

オンにして調整するには、MENU > レイヤー > 水 > 深度陰影表示の順に選択します。

チャート設定

注意: すべての設定がすべてのチャートおよび 3D チャートビューに適用されるわけではありません。一部の設定では、外部アクセサリまたは該当するプレミアムチャートが必要です。

チャートで、MENU > チャートの設定を選択します。

地図の方向: 地図の表示方法を設定します。

前を見てください: 速度が速くなると現在の場所を画面の下部に自動で移動します。最善の結果を示す速度を入力します。

船の方向: 地図上の船舶アイコンのアライメントを設定します。自動オプションでは、GPS COG を使用して高速で船舶アイコンを、低速で磁気ヘッドを位置合わせして、船舶アイコンとアクティブなトラックラインの位置合わせを改善します。

船首方位オプションは、船舶アイコンを磁気船首方位に合わせます。GPS 方位(COG)オプションは、GPS COG を使用して船舶アイコンを位置合わせします。選択したデータソースが使用できない場合は、使用可能なデータソースが代わりに使用されます。

⚠️ 警告

船舶方向の設定は情報提供を目的としたものであり、厳密にたどることを目的としたものではありません。船舶の破損、人体への負傷および死亡事故を招く恐れがある座礁や危険物を回避するため、必ずナビエイドと水上の状況に従ってください。

注意: 組み合わせページで使用される 2 つのナビゲーションチャートに対して、地図の方向と船の方向の設定を個別に設定できます。

詳細: 地図上に表示する詳細情報の量をさまざまなズームレベルで調整します。

チャートのサイズ: チャートの表示サイズを設定します。

世界地図: チャートで基本世界地図または陰影表示された地図を使用します。これらの地図の違いは、詳細なチャートを表示するために大きくズームアウトした場合にのみ視認できます。

インセット地図: 現在の位置を中心とした小さな地図を表示します。

Fish Eye 3D の設定

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、この機能を使用できます。

Fish Eye 3D チャートビューから、MENU を選択します。

表示: 3D チャートビューの表示方法を設定します。

航跡: トラックを表示します。

魚探指向角: 変換器がカバーするエリアを示すコーンを表示します。

魚記号: 浮遊ターゲットを表示します。

サポートされている地図

安全で楽しい時間を水上でお過ごしいただけるように、Garmin デバイスは Garmin または認定サードパーティプロデューサーが作成した公式地図のみをサポートします。

地図は Garmin から購入できます。Garmin 以外の販売者から地図を購入する場合は、購入前に販売者を調べてください。オンラインの販売者には特に注意してください。サポートされていない地図を購入した場合は、販売者に返品してください。

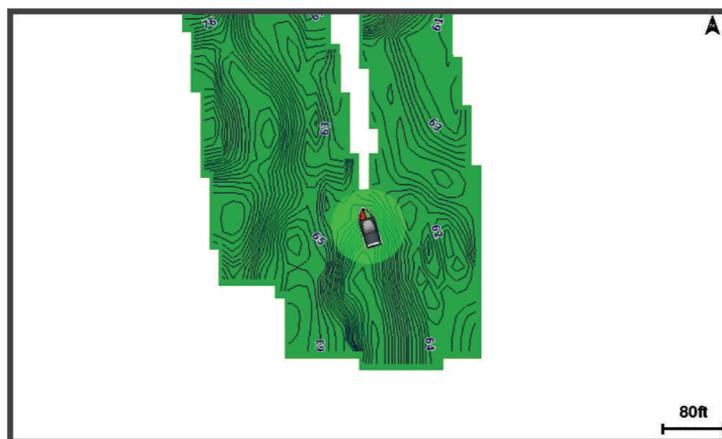
Garmin QuickdrawContours マッピング

△ 警告

Garmin Quickdraw 等高線マッピング機能により、ユーザーがマップを生成できます。Garmin は、第三者によって作成された地図の正確性、信頼性、完全性、または適時性についていかなる表明も行いません。第三者によって作成された地図を使用したり信用することは、お客様ご自身の責任になります。

Garmin Quickdraw Contours の地図機能を使用すると、等高線と深度ラベルが記載された任意の水域の地図をすばやく作成できます。

Garmin Quickdraw Contours がデータを記録するときは、船舶アイコンが色付きの丸で囲われます。この丸は、各パスでスキャンされた地図の隣接範囲を表します。



緑色の丸は適切な深度および GPS 位置、ならびに 16 km/h(10 mph)を下回る速度を示します。黄色の丸は適切な深度および GPS 位置、ならびに 16~32 km/h(10~20 mph)の速度を示します。赤色の丸は適切でない深度または GPS 位置、ならびに 32 km/h(20 mph)を上回る速度を示します。

組み合わせ画面に、または地図上の単一のビューとして Garmin Quickdraw Contours を表示できます。

保存されるデータの量は、データを記録するときのメモリーカードのサイズ、ソナーソース、船舶の速度によって異なります。シングルビームソナーを使用すると、より長い間記録することができます。概算では、2 GB のメモリーカードに約 1,500 時間分のデータを記録できます。

チャートプロッターのメモリーカードにデータを記録すると、その新しいデータが Garmin Quickdraw Contours の既存の地図に追加されて、メモリーカードに保存されます。新しいメモリーカードを挿入するとき、既存のデータは新しいカードに転送されません。

Garmin Quickdraw 等深線機能を使用して水域の地図を作成する

Garmin Quickdraw 等深線の機能を使用するには、ソナー深度、GPS 位置、空き容量があるメモリーカードが必要になります。

- 1 チャートビューから、MENU > Quickdraw Contours > 記録開始の順に選択します。
- 2 記録が完了したら、MENU > Quickdraw Contours > 記録停止の順に選択します。
- 3 管理 > 名前の順に選択し、地図の名前を入力します。

Garmin Quickdraw Contours の地図にラベルを追加する

Garmin Quickdraw Contours の地図にラベルを追加して、危険または主要ポイントをマークすることができます。

- 1 ナビゲーションチャートから位置を選択します。
- 2 Quickdraw ラベルを選択します。
- 3 ラベルのテキストを入力し、完了を選択します。

Garmin Quickdraw コミュニティ

Garmin Quickdraw コミュニティは、他のユーザーが作成した地図をダウンロードできる、だれでも利用可能な無料のオンラインコミュニティです。Garmin Quickdraw 等高線地図を他のユーザーと共有できます。Garmin Quickdraw コミュニティにアクセスするには、ActiveCaptain アプリを使用する必要があります ([ActiveCaptain で Garmin Quickdraw コミュニティとつながる、24 ページ](#))。

注意: Garmin Quickdraw コミュニティに参加するには、Garmin デバイスにメモリーカードスロットおよび Wi-Fi テクノロジーが搭載されている必要があります。

ActiveCaptain で Garmin Quickdraw コミュニティとつながる

- 1 モバイルデバイスから、ActiveCaptain アプリを開き、ECHOMAP UHD2 デバイスに接続します ([ActiveCaptain アプリの操作手順、9 ページ](#))。
- 2 アプリから、Quickdraw コミュニティを選択します。

コミュニティの他のユーザーによる等高線をダウンロードしたり ([ActiveCaptain を使用した Garmin Quickdraw コミュニティ地図のダウンロード、24 ページ](#))、作成した等高線を共有したりできます ([ActiveCaptain を使用して Garmin Quickdraw 等深線地図を Garmin Quickdraw コミュニティと共有する、24 ページ](#))。

ActiveCaptain を使用した Garmin Quickdraw コミュニティ地図のダウンロード

他のユーザーが作成し、Garmin Quickdraw コミュニティと共有している Garmin Quickdraw 等高線地図をダウンロードできます。

- 1 モバイルデバイスの ActiveCaptain アプリから、**Quickdraw コミュニティ > 等高線を検索**を選択します。
- 2 地図と検索機能を使用して、ダウンロードする領域を検索します。
赤色のドット領域は、当該エリアの共有されている Garmin Quickdraw 等高線地図を示します。
- 3 **ダウンロードする地域を選択する**を選択します。
- 4 ボックスをドラッグして、ダウンロードするエリアを選択します。
- 5 ダウンロードするエリアを変更するには、角をドラッグします。
- 6 **ダウンロードエリアを選択**します。

次回 ActiveCaptain アプリを ECHOMAP UHD2 デバイスに接続すると、ダウンロードされた等高線がデバイスに自動的に転送されます。

ActiveCaptain を使用して Garmin Quickdraw 等深線地図を Garmin Quickdraw コミュニティと共有する

自分で作成した Garmin Quickdraw 等深線地図を Garmin Quickdraw コミュニティの他の人と共有できます。

等深線地図を共有すると、その等深線地図のみが共有されます。ウェイポイントは共有されません。

ActiveCaptain アプリの設定時に、等高線をコミュニティと自動的に共有すると選択した可能性があります。それ以外の場合は、次の手順に従って共有を有効にします。

モバイルデバイス上の ActiveCaptain アプリケーションから、**プロッターと同期 > コミュニティに投稿する**を選択します。

次回、ActiveCaptain アプリを ECHOMAP UHD2 デバイスに接続すると、等高線地図がコミュニティに自動的に転送されます。

Garmin Quickdraw 等深線の設定

チャートから、MENU > Quickdraw Contours > 設定を選択します。

オフセットを記録中: ソナー深度と等深線記録深度の間の間隔を設定します。最後の記録から水位が変化した場合は、この設定を調整して、両方の記録で記録深度が同じになるようにします。

たとえば、最後に記録されたソナー深度が 3.1 m(10.5 ft.)で、今日のソナー深度が 3.6 m(12 ft.)の場合は、オフセットを記録中値に -0.5 m(-1.5 ft.)を入力します。

ユーザー表示オフセット: 等深線深度と深度ラベルの差異を独自の等深線地図に設定し、水域の水位の変化または記録された地図の深度エラーを補正します。

コミュニティ表示オフセット: 等深線深度と深度ラベルの差異をコミュニティ等深線地図に設定し、水域の水位の変化または記録された地図の深度エラーを補正します。

カラーを調査する: Garmin Quickdraw 等深線表示の色を設定します。この設定をオンにすると、記録の質が色で示されます。この設定をオフにすると、等深線エリアでは標準地図の色が使用されます。

緑色は適切な深度および GPS 位置、ならびに 16 km/h(10 mph)を下回る速度を示します。黄色は適切な深度および GPS 位置、ならびに 16~32 km/h(10~20 mph)の速度を示します。赤色は適切でない深度または GPS 位置、ならびに 32 km/h(20 mph)を上回る速度を示します。

深度陰影表示: 深度範囲の最大深度と最小深度、およびその深度範囲の色を指定します。

チャートプロッターを使ったナビゲーション

△ 警告

チャートプロッターに表示されるルートとナビラインはすべて、一般的なルートガイダンスを提供したり、適切な航路を特定したりすることのみを目的としたものであり、厳密にたどることを目的としたものではありません。船舶の破損、人体への負傷および死亡事故を招く恐れがある座礁や危険物を回避するため、ナビゲーション時は必ずナビエイドと水上の状況に従ってください。

Auto Guidance 機能は、電子的な海図情報に基づいています。このデータは、障害物や海底の状況について、内容を保証するものではありません。表示される航路と目視による情報をすべて慎重に比較して、陸地、浅瀬、進路上のその他の障害物を避けるようにしてください。

Go To 機能を使用する場合、直線の航路や補正された航路が、陸地や浅瀬を横切っていることもあります。目視の情報に基づいて操船し、陸地、浅瀬、その他の危険な障害物を避けるようにします。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって特定のチャートビューを使用できます。

ナビゲーションを開始するには、目的地を選択し、コースを設定するか、ルートを作成して、コースまたはルートを進みます。ナビゲーションチャート、釣りチャート、Perspective 3D チャートビュー、または Mariner's Eye 3D チャートビュー上のコースまたはルートを進むことができます。

開始、ルートへ、または Auto Guidance のいずれかの方法を使用して、目的地までのコースを設定して進むことができます。

開始: 目的地まで直接移動します。これは、目的地までナビゲーションする標準のオプションです。チャートプロッターにより、目的地までの直線コースまたはナビラインが作成されます。経路が陸地やその他の障害物の上を通過する場合があります。

ルートへ: 現在の位置から目的地までのルートを作成します。また、途中に方向転換を追加することができます。このオプションでは、目的地までの直線コースが提供されますが、陸地やその他の障害物を避けるために、ルートに方向転換を追加することができます。

Auto Guidance: 指定された船舶に関する情報およびチャートデータを使用して、目的地までの最適な経路を決定します。このオプションは、互換性のあるチャートプロッターで互換性のあるプレミアムチャートを使用する場合にのみ利用できます。このオプションでは、目的地までの詳細な進路方向を含む経路が提供され、陸地やその他の障害物が回避されます（[オートガイダンス、32 ページ](#)）。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、Auto Guidance を使用できます。

ルートラインの色は、いくつかの要因によって変わります（[ルートカラーコーディング、26 ページ](#)）。

ナビゲーションに関する基本的な質問

質問	回答
チャートプロッターが進みたい方向(方位)を示すようにするにはどうすればよいですか?	直線航法機能を使用してナビゲーションしてください (Go To 機能を使用して直線コースを設定して進む, 27 ページ)。
デバイスが現在の位置から目的地までの直線ルート(最小限のクロストラック)に沿った最短距離でガイドするようにするにはどうすればよいですか?	単一区間のルートを作成し、航路航法機能を使用してそのルートをナビゲーションしてください (現在の位置からのルートを作成してナビゲーションする, 30 ページ)。
示された障害物を避けながら、デバイスが目的地までガイドするようにするにはどうすればよいですか?	複数区間のルートを作成し、航路航法機能を使用してそのルートをナビゲーションしてください (現在の位置からのルートを作成してナビゲーションする, 30 ページ)。
デバイスは経路を作成できますか?	オートガイダンスをサポートするプレミアム地図を持っていて、現在の位置がオートガイダンスによってカバーされるエリアである場合は、オートガイダンスを使用してナビゲーションしてください (Auto Guidance 経路を設定して進む, 32 ページ)。
自分の船舶用にオートガイダンスの設定を変更するにはどうすればよいですか?	オートガイダンス経路の設定, 34 ページを参照してください。

ルートカラーコーディング

△ 警告

チャートプロッターに表示されるルートとナビラインはすべて、一般的なルートガイダンスを提供したり、適切な航路を特定したりすることのみを目的としたものであり、厳密にたどることを目的としたものではありません。船舶の破損、人体への負傷および死亡事故を招く恐れがある座礁や危険物を回避するため、ナビゲーション時は必ずナビエイドと水上の状況に従ってください。

Auto Guidance 機能は、電子的な海図情報に基づいています。このデータは、障害物や海底の状況について、内容を保証するものではありません。表示される航路と目視による情報をすべて慎重に比較して、陸地、浅瀬、進路上の他の障害物を避けるようにしてください。

Go To 機能を使用する場合、直線の航路や補正された航路が、陸地や浅瀬を横切っていることもあります。目視の情報に基づいて操船し、陸地、浅瀬、他の危険な障害物を避けるようにします。

ナビゲーションの実行中に、ルートの色が変化して、注意が必要なタイミングが示されます。

マゼンタ: デフォルトルート／コースライン。

薄い紫: 動的に修正されたコースで、コース外であることを示します。

橙: 注意！ルートのこの区間は、Auto Guidance 深度および高さ設定のしきい値に近くなっている場合があります。たとえば、ルートが橋の下を横切る場合、または水深が浅い可能性がある場合に、ルート区間はオレンジになります。Garmin Navionics+および Garmin Navionics Vision+チャートのみ。

赤色の縞模様: 警告：ルートのこの区間は、設定した Auto Guidance の深度／高さでは、安全でない可能性があります。たとえば、ルートが非常に低い橋の下を横切る場合、または水深が浅い場合に、ルート区間は赤色の縞模様になります。この線は Garmin Navionics+および Garmin Navionics Vision+チャートでのみ赤色の縞模様です。以前のバージョンのチャートでは、マゼンタとグレイの縞模様が使用されていました。

グレイ: 陸地やその他の障害物、またはその場所がチャートの対象範囲に含まれていないため、ルートのこの区間を計算できません。

目的地

さまざまなチャートおよび 3D チャートビューを使用して、またはリストを使用して目的地を選択できます。

名前で目的地を検索する

保存したウェイポイント、保存したルート、保存したトラック、および海洋サービスの目的地を名前で検索できます。

- 1 ◀> サービス > 名前で検索するの順に選択します。
- 2 目的地の名前の少なくとも一部を入力します。
- 3 必要に応じて、完了を選択します。
検索条件を含む最寄りの目的地が 50 地点表示されます。
- 4 目的地を選択します。

ナビゲーションチャートを使用して目的地を選択する

ナビゲーションチャートから目的地を選択します。

海洋サービスの目的地を検索する

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、この機能を使用できます。

チャートプロッターには、海洋サービスを提供する数千の目的地に関する情報が含まれています。

- 1 ◀> サービスの順に選択します。
- 2 沖合サービスまたは内陸サービスを選択します。
- 3 必要に応じて、海洋サービスのカテゴリーを選択します。
チャートプロッターには、最寄りの目的地および各目的地までの距離と方位のリストが表示されます。
- 4 目的地を選択すると、目的地の詳細情報がある場合はそれが表示されます。
矢印キーを使用すると、最寄りの目的地のリストをスクロールできます。

Go To 機能を使用して直線コースを設定して進む

△ 警告

Go To 機能を使用する場合、直線の航路や補正された航路が、陸地や浅瀬を横切っていることもあります。目視の情報に基づいて操船し、陸地、浅瀬、その他の危険な障害物を避けるようにします。

現在の位置から選択した目的地までの直線コースを設定して進むことができます。

- 1 目的地を選択します ([目的地](#), 26 ページ)。
- 2 ナビ開始 > 開始の順に選択します。
ピンクの線が表示されます。ピンクの線の中央には、現在の位置から目的地までの補正されたコースを表す細い紫の線があります。補正されたコースは動的であり、船舶がコースを外れると船舶とともに移動します。
- 3 ピンクの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。
- 4 船舶がコースを外れた場合は、紫の線(補正されたコース)をたどって目的地に進むか、ピンクの線(直線コース)に戻るよう操船します。
船舶がコースに戻るための推奨旋回半径を示す、オレンジ色の針路矢印を使用することもできます。

△ 警告

旋回を実行する前に、航路に障害物がないことを確認します。航路が安全でない場合は、船舶の速度を落とし、コースに戻る安全な航路を決定します。

ナビゲーションを停止する

ナビゲーション中は、該当するチャートから以下のようにしてオプションを選択します。

- MENU > ナビゲーション中止の順に選択します。
- Auto Guidance でナビゲーションしているときに、MENU > ナビゲーションオプション > ナビゲーション中止の順に選択します。

ウェイポイント

ウェイポイントとは、デバイスに記録して保存した場所です。ウェイポイントでは、今いる場所、これから行く場所、今までいた場所を登録することができます。名前、高度、深度など、場所に関する詳細情報を追加できます。

現在の位置をウェイポイントとしてマークする

いずれかの画面から、**MARK** を選択します。

さまざまな位置にウェイポイントを作成する

1 チャートから **▲ > ポイント > 新規ポイント** の順に選択します。

2 次の中からオプションを選択します。

- 位置座標を入力してウェイポイントを作成するには、**座標の入力**を選択し、座標を入力します。
- チャートを使用してウェイポイントを作成するには、**使用チャート**を選択し、位置を選択してから、**ウェイポイントを作成します。**を選択します。
- 範囲(距離)と方位を使用してウェイポイントを作成するには、**範囲/方位を入力**を選択して、情報を入力します。

MOB 位置を登録する

MARK > MOB を選択します。

国際的な落水(MOB)記号はアクティブな MOB ポイントをマークし、チャートプロッターはそのマークされた位置までの直線コースを設定します。

ウェイポイントの予想

別の場所からの距離と方位を予想して、新しいウェイポイントを作成できます。この機能は、セーリングレースのスタートラインとゴールラインを作成するときに役立つことがあります。

1 **▲ > ポイント > 新規ポイント > 範囲/方位を入力**を選択します。

2 必要に応じて、チャート上で参照ポイントを選択します。

3 **範囲/方位を入力**を選択します。

4 距離を入力して、**完了**を選択します。

5 方位を入力して、**完了**を選択します。

6 **ウェイポイントを作成します。**を選択します。

すべてのウェイポイントのリストを表示する

次の中からオプションを選択します。

- ▲ > ポイント**を選択します。

- チャートまたは 3D チャートビューから、**MENU > ポイント**を選択します。

保存したウェイポイントを編集する

1 **▲ > ポイント**を選択します。

2 ウェイポイントを選択します。

3 レビュー > **編集**の順に選択します。

4 次の中からオプションを選択します。

- 名前を追加するには、**名前**を選択し、名前を入力します。
- 記号を変更するには、**シンボル**を選択します。
- ウェイポイントの位置を移動するには、**位置**を選択します。
- 深度を変更するには、**深度**を選択します。
- 水温を変更するには、**水温**を選択します。
- コメントを変更するには、**コメント**を選択します。

保存したウェイポイントを移動する

- 1 ▲> ポイントを選択します。
- 2 ウェイポイントを選択します。
- 3 レビュー > 編集 > 位置の順に選択します。
- 4 ウェイポイントの新しい位置を示します。
 - ・ 座標を使用してウェイポイントを移動するには、座標の入力を選択して、新しい座標を入力し、完了またはキャンセルを選択します。
 - ・ チャートを使用しているときにウェイポイントを移動するには、使用チャートを選択し、チャート上の新しい位置を選択してから、ウェイポイントの移動を選択します。
 - ・ 船舶の現在の位置を使用してウェイポイントを移動するには、使用 現在位置を選択します。
 - ・ 範囲(距離)と方位を使用してウェイポイントを移動するには、範囲/方位を入力を選択して、情報を入力し、完了を選択します。

保存したウェイポイントを参照してナビゲーションする

△ 警告

チャートプロッターに表示されるルートとナビラインはすべて、一般的なルートガイダンスを提供したり、適切な航路を特定したりすることのみを目的としたものであり、厳密にたどることを目的としたものではありません。船舶の破損、人体への負傷および死亡事故を招く恐れがある座礁や危険物を回避するため、ナビゲーション時は必ずナビエイドと水上の状況に従ってください。

Auto Guidance 機能は、電子的な海図情報に基づいています。このデータは、障害物や海底の状況について、内容を保証するものではありません。表示される航路と目視による情報をすべて慎重に比較して、陸地、浅瀬、進路上のその他の障害物を避けるようにしてください。

Go To 機能を使用する場合、直線の航路や補正された航路が、陸地や浅瀬を横切っていることもあります。目視の情報に基づいて操船し、陸地、浅瀬、その他の危険な障害物を避けるようにします。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、Auto Guidance を使用できます。

ウェイポイントにナビゲーションする前に、ウェイポイントを作成する必要があります。

- 1 ▲> ポイントを選択します。
- 2 ウェイポイントを選択します。
- 3 ナビ開始を選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ 選択した位置に直接ナビゲーションするには、開始を選択します。
 - ・ 選択した位置までの方向転換を含めたルートを作成するには、ルートへを選択します。
 - ・ Auto Guidance を使用するには、Auto Guidance を選択します。

- 5 ピンクの線で示されたコースを確認します。

注意: Auto Guidance を使用している場合、マゼンタのラインの一部でグレーになっている部分は、Auto Guidance がそのラインの一部を計算できないことを表しています。この現象が発生する原因是、安全と判断するために指定された最低限の水深と障害物の高さにあります。

- 6 ピンクの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。

ウェイポイントまたは MOB を削除する

- 1 ▲> ポイントを選択します。
- 2 ウェイポイントまたは MOB を選択します。
- 3 レビュー > 削除の順に選択します。

すべてのウェイポイントを削除する

▲> ユーザーデータを管理する > ユーザーデータを削除 > ポイント > すべての順に選択します。

ルート

ルートとは、ある場所から 1 つ以上の目的地までの経路のことです。

現在の位置からのルートを作成してナビゲーションする

ナビゲーションチャートまたは釣りチャートでルートを作成して即座にナビゲーションすることができます。この方法では、ルートは保存されません。

- 1 ナビゲーションチャートまたは釣りチャートから目的地を選択します。
- 2 **SELECT > ルートへの順に選択します。**
- 3 目的地の手前の最後の方向転換の位置を選択します。
- 4 **SELECT > 変針追加を選択します。**
- 5 必要に応じて手順を繰り返し、目的地から船舶の現在の位置に至るまでの方向転換を追加します。
追加する最後の方向転換は、現在の位置から見て最初の方向転換になる必要があります。その方向転換は船舶に最も近い位置にある方向転換です。
- 6 **SELECT > 完了を選択します。**
- 7 ピンクの線で示されたコースを確認します。
- 8 ピンクの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。

ルート作成と保存

1 つのルートに最大 250 個の方向転換を追加できます。

- 1 **◀ > ルート > 新規 > 海図を利用したルートの順に選択します。**
- 2 ルートの出発地を選択します。
始点として、現在の位置または別の位置を使用できます。
- 3 **変針追加を選択します。**
- 4 チャート上の次の方向転換の位置を選択します。
- 5 **変針追加を選択します。**
- 6 必要に応じて、手順 4 と 5 を繰り返し、方向転換を追加します。
- 7 **完了を選択します。**

ルートおよび Auto Guidance 経路のリストを表示する

- 1 **◀ > ルートの順に選択します。**
- 2 必要に応じて、絞り込みを選択し、ルートのみ、または Auto Guidance 経路のみを表示します。
- 3 **並べ替えを選択すると、使用可能なルートのリストを範囲、長さ、または名前で並べ替えられます。**

保存したルートを編集する

ルートの名前を変更したり、ルートに含まれる方向転換を変更したりできます。

- 1 **◀ > ルートの順に選択します。**
- 2 ルートを選択します。
- 3 **レビュー > 編集ルートの順に選択します。**
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ 名前を変更するには、**名前を選択し、名前を入力します。**
 - ・ 方向転換をリストから編集するには、**編集変針 > 変針リストを使用して、の順に選択し、リストから方向転換を選択します。**
 - ・ チャートを使用して方向転換を選択するには、**編集変針 > 使用チャートの順に選択し、チャート上の位置を選択します。**

保存されたウェイポイントを使用する方向転換を変更してもそのウェイポイントは移動せず、ルート内に方向転換が再配置されます。ルートで使用されているウェイポイントの位置を移動しても、ルート内の方向転換は移動しません。

保存したルートを参照してナビゲーションする

ルートのリストを参照して、いずれかのルートをナビゲーションする前に、少なくとも 1 つのルートを作成して保存する必要があります ([ルート作成と保存, 30 ページ](#))。

- 1  ルートの順に選択します。
- 2 ルートを選択します。
- 3 ナビ開始を選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ルートを作成したときに使用した出発地点からのルートをナビゲーションするには、**前方**を選択します。
 - ルートを作成したときに使用した目的地点からのルートをナビゲーションするには、**逆方向**を選択します。
 - ルートに平行にナビゲーションするには、**オフセット**を選択します ([保存したルートを参照してルートに並行してナビゲーションする, 31 ページ](#))。
 - ルートの最初のウェイポイントからルートをナビゲーションするには、**最初から**を選択します。
- 5 ピンクの線が表示されます。ピンクの線の中央には、現在の位置から目的地までの補正されたコースを表す細い紫の線があります。補正されたコースは動的であり、船舶がコースを外れると船舶とともに移動します。
- 6 ルートの各区間でピンクの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。
- 7 船舶がコースを外れた場合は、紫の線(補正されたコース)をたどって目的地に進むか、ピンクの線(直線コース)に戻るよう操船します。

保存したルートを参照してルートに並行してナビゲーションする

ルートのリストを参照して、いずれかのルートをナビゲーションする前に、少なくとも 1 つのルートを作成して保存する必要があります ([ルート作成と保存, 30 ページ](#))。

- 1  ルートの順に選択します。
注意: プレミアムチャートでは、海域によって、Auto Guidance を使用できます。
- 2 ルートを選択します。
- 3 ナビ開始を選択します。
- 4 オフセットを選択して、ルートに平行にナビゲーションします。
- 5 オフセットを選択して、ルートからオフセットする距離を入力します。
- 6 ルートをナビゲーションする方法を示します。
 - ルートを作成したときに使用した出発地点からのルートを元のルートの左側にナビゲーションするには、**前方 - 左舷**を選択します。
 - ルートを作成したときに使用した出発地点からのルートを元のルートの右側にナビゲーションするには、**前方 - 右舷**を選択します。
 - ルートを作成したときに使用した目的地点からのルートを元のルートの左側にナビゲーションするには、**逆方向 - 左舷**を選択します。
 - ルートを作成したときに使用した目的地点からのルートを元のルートの右側にナビゲーションするには、**逆方向 - 右舷**を選択します。
- 7 必要に応じて、**完了**を選択します。
ピンクの線が表示されます。ピンクの線の中央には、現在の位置から目的地までの補正されたコースを表す細い紫の線があります。補正されたコースは動的であり、船舶がコースを外れると船舶とともに移動します。
- 8 ピンクの線で示されたコースを確認します。
- 9 ルートの各区間でピンクの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。
- 10 船舶がコースを外れた場合は、紫の線(補正されたコース)をたどって目的地に進むか、ピンクの線(直線コース)に戻るよう操船します。

サーチパターンの開始

サーチパターンを開始して、エリアをサーチできます。さまざまなサーチ状況に適した異なるパターンがあります。

- 1 ◀> ルート > 新規 > SAR パターンを使用したルートの順に選択します。
- 2 パターンを選択します。
 - ・ 目標の場所がかなりわかっていて、検索エリアが狭く、集中的なサーチが必要な場合は、**区域探索**を選択します。
 - ・ 目標の場所の土地勘があまりなく、検索エリアが狭く、集中的なサーチが必要な場合は、**スクエア拡大**を選択します。
 - ・ 目標の場所に接近していて、検索エリアが狭く、一貫したサーチが必要な場合は、**クリーピング／平行探索ルート**を選択します。
- 3 サーチパラメータを入力します。
- 4 完了を選択します。

保存したルートを削除する

- 1 ◀> ルートの順に選択します。
- 2 ルートを選択します。
- 3 レビュー > 削除の順に選択します。

保存したすべてのルートを削除する

◀> ユーザーデータを管理する > ユーザーデータを削除 > ルートの順に選択します。

オートガイダンス

△ 警告

Auto Guidance 機能は、電子的な海図情報に基づいています。このデータは、障害物や海底の状況について、内容を保証するものではありません。表示される航路と目視による情報をすべて慎重に比較して、陸地、浅瀬、進路上のその他の障害物を避けるようにしてください。

チャートプロッターに表示されるルートとナビラインはすべて、一般的なルートガイダンスを提供したり、適切な航路を特定したりすることのみを目的としたものであり、厳密にたどることを目的としたものではありません。船舶の破損、人体への負傷および死亡事故を招く恐れがある座礁や危険物を回避するため、ナビゲーション時は必ずナビエイドと水上の状況に従ってください。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、Auto Guidance を使用できます。

オートガイダンスを使用して、目的地までの最適な経路を描画できます。オートガイダンスはチャートプロッタを使用して、水深や既知の障害物などのチャートデータをスキャンし、推奨経路を計算します。ナビゲーション中に経路を調整できます。

Auto Guidance 経路を設定して進む

- 1 目的地を選択します ([目的地](#), 26 ページ)。
- 2 ナビ開始 > Auto Guidance の順に選択します。
- 3 ピンクの線で示された経路を確認します。
- 4 ナビゲーションを開始するを選択します。
- 5 ピンクの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします ([ルートカラーコーディング](#), 26 ページ)。

注意: Auto Guidance を使用している場合、マゼンタのラインの一部でグレーになっている部分は、Auto Guidance がそのラインの一部を計算できないことを表しています。この現象が発生する原因は、安全と判断するために指定された最低限の水深と障害物の高さにあります。

Auto Guidance 経路を作成して保存する

- 1 ▲ > ルート > 新規 > Auto Guidance] の順に選択します。
- 2 出発地点を選択し、次へを選択します。
- 3 目的地点を選択し、次へを選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ ハザードを表示して、ハザードの近くの経路を調整するには、ハザードレビューを選択します。
 - ・ 経路を調整するには、経路の調整を選択し、画面に表示される指示に従います。
 - ・ 経路を削除するには、Auto Guidance をキャンセルを選択します。
 - ・ 経路を保存するには、完了を選択します。

保存した Auto Guidance 経路を調整する

- 1 ▲ > ルートおよび Auto Guidance の順に選択します。
- 2 経路を選択し、レビュー > 編集 > 経路の調整を選択します。
ヒント: Auto Guidance 経路をナビゲーションしているときに、ナビゲーションチャート上の経路を選択し、経路の調整を選択します。
- 3 経路上で位置を選択します。
- 4 矢印キーを使用して、ポイントを新しい位置に移動します。
- 5 必要に応じて、ポイントを選択し、削除を選択します。
- 6 完了を選択します。

進行中の Auto Guidance 計算をキャンセルする

ナビゲーションチャートから、MENU > キャンセルの順に選択します。

ヒント: BACK を選択します。

日時を定めた到着を設定する

ルートまたは Auto Guidance 経路でこの機能を使用して、選択したポイントに到着する日時に関するフィードバックを取得できます。これにより、橋の開口部やレースのスタートラインなどの位置に到着する日時を定めることができます。

- 1 ナビゲーションチャートから、MENU を選択します。
- 2 到着時間の順に選択します。

ヒント: 経路またはルート上のポイントを選択することにより、到着時間メニューをすばやく開くことができます。

オートガイダンス経路の設定

△ 注意

推奨深度と垂直クリアランスの設定は、チャートプロッターが Auto Guidance 経路を計算する方法に影響します。Auto Guidance 経路のセクションが推奨深度よりも浅いか、または垂直クリアランス設定よりも低い場合、Auto Guidance 経路のセクションは Garmin Navionics+および Garmin Navionics Vision+チャートではオレンジの実線または赤の縞模様の線で表示され、以前のバージョンではマゼンタとグレーの縞模様の線で表示されます。船舶がこうしたエリアの1つに進入すると、警告メッセージが表示されます ([ルートカラーコーディング、26 ページ](#))。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、Auto Guidance を使用できます。

注意: すべての設定がすべての地図に適用されるわけではありません。

チャートプロッターが Auto Guidance 経路を計算するときに使用するパラメータを設定できます。

 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance の順に選択します。

推奨深度: チャートの深度データに基づいて、船舶が安全に航行できる最低限の水深を設定します。

注意: (2016 年よりも前に作成された) プレミアムチャートの最低水深は 0.9144 メートルです。0.9144 メートル未満の値を入力しても、チャートでは、Auto Guidance 経路の計算に 0.9144 メートルの深度のみが使用されます。

垂直クリアランス: チャートデータに基づいて、船舶が安全に下を通過できる橋または障害物の最低限の高さを設定します。

海岸線距離: Auto Guidance 経路を海岸線にどの程度近づけるかを設定します。ナビゲーション中にこの設定を変更すると、Auto Guidance 経路が移動する場合があります。この設定に使用できる値は、絶対的な値ではなく、相対的な値です。Auto Guidance 経路が海岸線から適切な距離を隔てた位置に配置されるように、狭い水路のナビゲーションが必要になる 1 箇所以上の既知の目的地を使用して、Auto Guidance 経路の配置を評価することができます ([海岸線からの距離を調整する、35 ページ](#))。

海岸線からの距離を調整する

海岸線距離の設定は、Auto Guidance ラインを海岸線にどの程度近づけるかを示します。ナビゲーション中にこの設定を変更すると、Auto Guidance ラインが移動する場合があります。海岸線距離の設定に使用できる値は、絶対的な値ではなく、相対的な値です。Auto Guidance ラインが海岸線から適切な距離を隔てた位置に配置されるようにするために、狭い水路のナビゲーションが必要になる複数の既知の目的地を使用して、Auto Guidance ラインの配置を評価します。

- 1 船舶をドックに入れるか、錨を下ろします。
- 2  > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 標準の順に選択します。
- 3 以前のナビゲーション先の目的地を選択します。
- 4 ナビ開始 > Auto Guidance の順に選択します。
- 5 Auto Guidance ラインの配置を確認し、ラインが既知の障害物を回避して、方向転換により効率的な航行が可能になっているかどうかを判定します。
- 6 次の中からオプションを選択します。
 - Auto Guidance ラインの配置が適切である場合は、MENU > ナビゲーションオプション > ナビゲーション中止の順に選択し、手順 10 に進みます。
 - ラインが既知の障害物に接近しすぎている場合は、 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 遠いの順に選択します。
 - ラインの方向転換が大回りすぎる場合は、 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 近くにの順に選択します。
- 7 手順 6 で近くにまたは遠いを選択した場合は、Auto Guidance ラインの配置を確認し、ラインが既知の障害物を回避して、方向転換により効率的な航行が可能になっているかどうかを判定します。
Auto Guidance の設定を海岸線距離または近くにに設定した場合でも、最も近いは、開けた水域で障害物から十分なクリアランスを保ちます。その結果、狭い水路を通過して選択済みの目的地にナビゲーションする必要がない限り、チャートプロッターは Auto Guidance ラインを再配置しません。
- 8 次の中からオプションを選択します。
 - Auto Guidance ラインの配置が適切である場合は、MENU > ナビゲーションオプション > ナビゲーション中止の順に選択し、手順 10 に進みます。
 - ラインが既知の障害物に接近しすぎている場合は、 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 最も遠いの順に選択します。
 - ラインの方向転換が大回りすぎる場合は、 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 最も近いの順に選択します。
- 9 手順 8 で最も近いまたは最も遠いを選択した場合は、Auto Guidance ラインの配置を確認し、ラインが既知の障害物を回避して、方向転換により効率的な航行が可能になっているかどうかを判定します。
Auto Guidance の設定を海岸線距離または近くにに設定した場合でも、最も近いは、開けた水域で障害物から十分なクリアランスを保ちます。その結果、狭い水路を通過して選択済みの目的地にナビゲーションする必要がない限り、チャートプロッターは Auto Guidance ラインを再配置しません。
- 10 海岸線距離の設定機能に慣れるまでは毎回、異なる目的地を使用して、手順 3~9 を少なくとももう一度繰り返してください。

トラック

トラックは、船舶の経路の記録です。現在記録されているトラックは、アクティブラックと呼ばれ、保存することができます。それぞれのチャートまたは 3D チャートビューにトラックを表示できます。

トラックを表示する

- 1 チャートから、MENU > レイヤー > ユーザーデータを管理する > 航跡の順に選択します。
- 2 表示するトラックを選択します。
チャート上のトレイルラインは、トラックを示します。

アクティブラックの色を設定する

- 1 ◀> 航跡 > 有効航路オプション > 航跡色の順に選択します。
- 2 トラックの色を選択します。

アクティブラックを保存する

現在記録されているトラックは、アクティブラックと呼ばれます。

- 1 ◀> 航跡 > 動作中 航跡を保存の順に選択します。
- 2 次の中からオプションを選択します。
 - ・ アクティブラックが開始された時刻を選択します。
 - ・ 全ログを選択します。
- 3 保存を選択します。

保存したトラックのリストを表示する

◀> 航跡 > 保存済 航跡の順に選択します。

保存したトラックを編集する

- 1 ◀> 航跡 > 保存済 航跡の順に選択します。
- 2 トラックを選択します。
- 3 レビュー > 編集航跡の順に選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ 名前を選択し、新しい名前を入力します。
 - ・ 航跡色を選択し、色を選択します。
 - ・ ルートとして保存を選択して、トラックをルートとして保存します。
 - ・ 境界として保存を選択して、トラックを境界として保存します。

トラックをルートとして保存する

- 1 ◀> 航跡 > 保存済 航跡の順に選択します。
- 2 トラックを選択します。
- 3 レビュー > 編集航跡 > ルートとして保存の順に選択します。

記録したトラックを参照してナビゲーションする

トラックのリストを参照してそのリストに移動するには、少なくとも 1 つのトラックを記録して保存する必要があります。

- 1 ◀> 航跡 > 保存済 航跡の順に選択します。
- 2 トラックを選択します。
- 3 航跡追尾を選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ トラックを作成したときに使用した出発地点からのトラックをナビゲーションするには、前方を選択します。
 - ・ トラックを作成したときに使用した目的地点からのトラックをナビゲーションするには、逆方向を選択します。
- 5 色付きの線で示されたコースを確認します。
- 6 ルートの各区間で線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。

保存したトラックを削除する

- 1 ◀> 航跡 > 保存済 航跡の順に選択します。
- 2 トラックを選択します。
- 3 レビュー > 削除の順に選択します。

保存したすべてのトラックを削除する

◀> ユーザーデータを管理する > ユーザーデータを削除 > 保存済 航跡の順に選択します。

アクティブトラックを再トレースする

現在記録されているトラックは、アクティブトラックと呼ばれます。

- 1 ◀> 航跡 > 動作中 航跡追従の順に選択します。
- 2 次の中からオプションを選択します。
 - ・ アクティブトラックが開始された時刻を選択します。
 - ・ 全ログを選択します。
- 3 色付きの線で示されたコースを確認します。
- 4 色付きの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。

アクティブトラックを消去する

◀> 航跡 > 動作中 航路クリアの順に選択します。

トラックのメモリが消去され、アクティブトラックが引き続き記録されます。

記録中にトラックのログメモリを管理する

- 1 ◀> 航跡 > 有効航路オプションの順に選択します。
- 2 記録モードを選択します。
- 3 次の中からオプションを選択します。
 - ・ トラックのメモリがいっぱいになるまでトラックログを記録するには、満了を選択します。
 - ・ トラックログを継続して記録し、古いトラックデータを新しいデータに置き換えるには、ラップを選択します。

トラックログの記録間隔を設定する

トラックプロットが記録される頻度を示すことができます。より頻度の高いプロットを記録すると、精度が向上しますが、トラックログが早くいっぱいになります。メモリをより効率的に使用するために、解像度間隔を設定することをお勧めします。

- 1 ◀> 航跡 > 有効航路オプション > インターバル > インターバルの順に選択します。
- 2 次の中からオプションを選択します。
 - ・ ポイント間の距離に基づいてトラックを記録するには、距離 > 変更の順に選択し、距離を入力します。
 - ・ 時間間隔に基づいてトラックを記録するには、時刻 > 変更の順に選択し、時間間隔を入力します。
 - ・ コースとの不一致に基づいてトラックを記録するには、解像度 > 変更の順に選択し、トラックポイントを記録する前に、正しいコースからの許容最大エラーを入力します。これは推奨される記録オプションです。

境界

△ 警告

この機能は状況認識のみに使用されるツールであり、すべての状況において座礁または衝突を回避できるわけではありません。ユーザーの責任において船舶を安全に運航させてください。

△ 注意

アラーム音を鳴らすには、発信音 設定をオンにする必要があります (サウンドおよびディスプレイ設定, 54 ページ)。アラーム音を設定しないと、負傷または物的損害の原因になる可能性があります。

境界を使用すると、水域の指定エリアを避けたり、指定エリアに留まったりできます。境界に進入または境界から離脱したときにアラートを出すようにアラームを設定できます。

地図を使用して、境界エリア、境界線、境界サークルを作成できます。また、保存したトラックとルートを境界線に変換できます。ウェイポイントからルートを作成することにより、ウェイポイントを使用して境界エリアを作成し、ルートを境界線に変換できます。

アクティブな境界として機能する境界を選択できます。アクティブな境界データは、チャート上のデータ項目に追加できます。

境界を作成する

- 1 **◀ > 境界 > 新規**の順に選択します。
- 2 境界の形状を選択します。
- 3 画面に表示される手順に従います。

ルートを境界に変換する

- 1 **◀ > ルート**の順に選択します。
- 2 ルートを選択します。
- 3 レビュー > 編集ルート > 境界として保存の順に選択します。

トラックを境界に変換する

- 1 **◀ > 航跡 > 保存済** 航跡の順に選択します。
- 2 トラックを選択します。
- 3 レビュー > 編集航跡 > 境界として保存の順に選択します。

境界を編集する

- 1 **◀ > 境界**の順に選択します。
- 2 境界を選択します。
- 3 レビューを選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ チャート上の境界の外観を編集するには、**オプションを表示する**を選択します。
 - ・ 境界線または境界名を変更するには、**編集境界**を選択します。
 - ・ 境界アラームを編集するには、**アラーム**を選択します。

境界アラームを設定する

設定した境界の指定された距離内にいるときに、境界アラームはアラートを出します。これは特定のエリアを回避する場合や特定のエリアで非常に警戒しなければならない場合に役立ちます。

- 1 **◀ > 境界**の順に選択します。
- 2 境界を選択します。
- 3 レビュー > アラームの順に選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ 船舶が境界から指定距離にあるときのアラームを設定するには、**警告距離**を選択し、距離を入力し、**完了**を選択します。
 - ・ エリア境界または円境界を出入りする際のアラームを設定するには、**エリア**を選択して**進入中**または**エリア外へ移動**を表示します。

すべての境界アラームを無効にする

◀ > ユーザーデータを管理する > 境界 > アラームの順に選択します。

境界を削除する

- 1 **◀ > 境界**の順に選択します。
- 2 境界を選択します。
- 3 レビュー > 編集境界 > 削除の順に選択します。

保存済みのウェイポイント、トラック、ルート、境界をすべて削除する

◀ > ユーザーデータを管理する > ユーザーデータを削除 > 全ユーザーデータを削除 > OK の順に選択します。

ソナー魚群探知機

チャートプロッターを互換性のある振動子に接続できる場合は、チャートプロッターを魚群探知機として使用できます。

ニーズに合った最適な振動子の詳細については、garmin.com/transducers にアクセスしてください。

さまざまなソナー表示により、エリア内の魚群を表示できます。使用できるソナー表示は、チャートプロッターに接続されている振動子とソナーモジュールのタイプによって異なります。たとえば、特定の Panoptix™ソナー画面は、互換性のある Panoptix 振動子を接続している場合にのみ表示できます。

使用できるソナー表示の基本的なタイプには、全画面表示、2つ以上の画面を組み合わせた分割画面表示、分割ズーム表示、2つの異なる周波数を表示する分割周波数表示の4つがあります。画面で各表示の設定をカスタマイズすることができます。たとえば、分割周波数表示を表示している場合、各周波数の感度を個別に調整できます。

ソナー表示の準備がニーズに合っていない場合でも、カスタムの組み合わせ画面を作成できます（組み合わせページをカスタマイズする、6 ページ）。

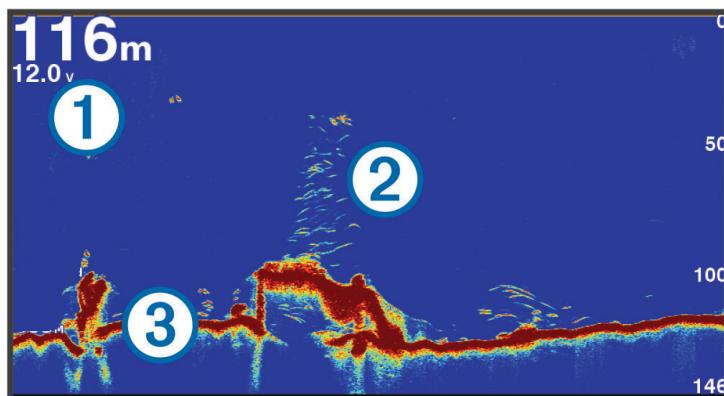
ソナー信号の送信を停止する

- ソナー画面でアクティブなソナーを無効にするには、MENU > 送信を選択します。
- ソナー送信をすべて無効にするには、○を押して、全魚探発信停止を選択します。

通常魚探ソナー表示

接続している変換器に応じて、いくつかの全画面表示が使用できます。

通常魚探全画面ソナー表示には、変換器からのソナー計測が大きな画像で表示されます。画面の右側にある目盛りは、画面を右から左にスクロールするときに、検出されたオブジェクトの深度を示します。



①	深度情報
②	浮遊ターゲットまたは魚群
③	水底

周波数ソナーの分割表示

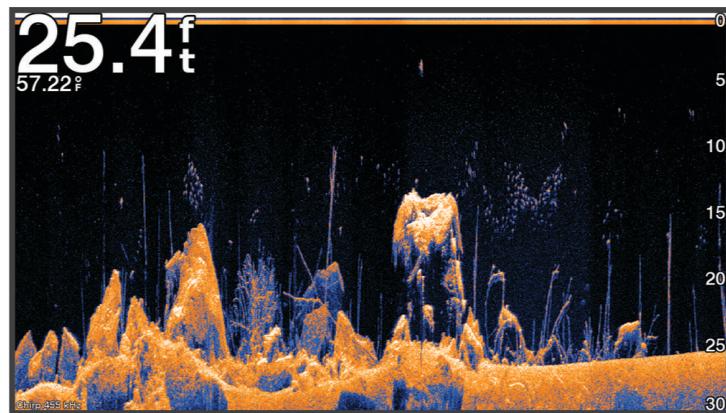
周波数ソナーの分割表示で、画面の両側には異なる周波数のソナーデータのグラフ全体が表示されます。複数の振動子または複数の周波数をサポートする振動子が取り付けられている場合は、この表示を使用できます。

注意: サポートされているチャートプロッターまたはソナーモジュールに接続されたシングルバンドの CHIRP 振動子を使用する場合、周波数ソナーの分割表示は2つの周波数間で交互に表示されるため、スクロール速度が遅くなります。この動きを識別するために、画面の両側の周波数ソナーの横にチャネルインジケータが表示されます。

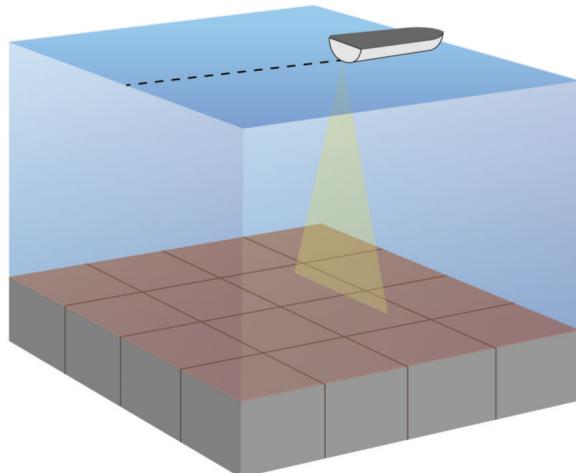
Garmin ClearVü™ ソナー表示

注意: Garmin ClearVü スキャンソナーを受信するには、互換性のある変換器が必要です。互換性のある振動子の詳細については、garmin.com/transducers を参照してください。

Garmin ClearVü 高周波ソナーはボート周辺の釣り環境の詳細画像を提供し、航行中のボートの下にある物体を詳細に表示します。



従来の変換器は円錐ビームを放射します。Garmin ClearVü スキャンソナーテクノロジーは、コピー機のビームの形状に類似したビームを放射します。このビームは、船舶の下にある物体のより明瞭な写真のような画像を提供します。

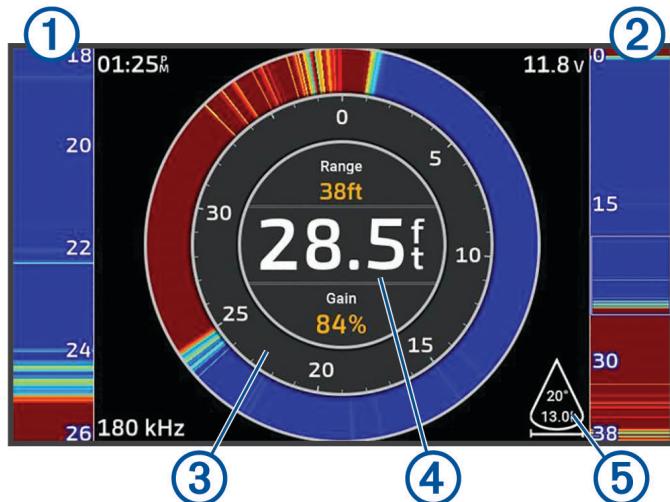


フラッシャー表示

フラッシャーでは、円形の深度スケールにソナー情報が表示され、船舶の下にあるものを示します。これは上部から始まるリングとして構成され、時計回りに進みます。深度はリング内のスケールによって示されます。示された深度で受信されると、ソナー情報がリングで点滅します。

フラッシャーの色はソナーリターンのさまざまな強度を示します。デフォルトのカラースキームは従来のソナーカラーパレットに準じています。黄色は最も強いリターン、オレンジは強いリターン、赤は弱いリターン、青は最も弱いリターンを示しています。

ソナー > フラッシャーを選択します。



①	A スコープ、右側表示の拡大表示
②	ズーム領域の範囲を示した A スコープ ²
③	深度スケール
④	現在位置の深度
⑤	現在の周波数での振動子のコーンの角度とスパン

組み合わせ画面でのソナー表示

1つ以上の使用可能なソナー表示をカスタムの組み合わせ画面に追加できます（組み合わせページをカスタマイズする, 6 ページ）。複数のソナーデータのソースが使用可能な場合は、カスタムの組み合わせ画面の別々のウィンドウに、異なるソナーソースを使用したソナー画面を表示できます。

複数のソナーデータのソースが使用可能な場合は、カスタムの組み合わせを作成するときに、使用するソースを選択するように促されます。組み合わせを作成した後で、組み合わせ画面のウィンドウで使用するソースを変更できます（ソナーソースを選択する, 42 ページ）。

² ▲と▼を押すと、ズーム領域を上下に移動できます。

振動子のタイプを選択

このチャートプロッターは、Garmin ClearVü 振動子を含む一連の補助振動子と互換性があり、garmin.com/transducers で購入できます。

チャートプロッターに含まれていない振動子に接続している場合、ソナーを正しく機能させるには、振動子の型式指定の設定が必要な場合があります。

注意: すべてのチャートプロッターとソナーモジュールがこの機能をサポートしているわけではありません。

1 次の手順を実行します。

- ソナー表示で、**MENU > 魚探設定 > インストール > 振動子** の順に選択します。
-  **船舶設定 > 振動子** の順に選択します。

2 変更する振動子を選択して、**モデルの変更**を選択します。

3 次のオプションを選択します。

- チャートプロッターが振動子を自動的に検出できるようにするには、**自動探知**を選択します。
- 振動子を手動で選択するには、**2 周波(77/200Khz)**または**2 周波数(200/50 kHz)**などの取り付けられている振動子に一致するオプションを選択します。

注意

振動子を手動で選択すると、振動子が損傷したり、振動子の性能が低下したりする可能性があります。

注意: 振動子を手動で選択し、その振動子の接続を解除してから別の振動子を接続した場合は、このオプションを自動探知にリセットする必要があります。

ソナーソースを選択する

特定のソナー表示にデータを提供する複数の振動子がある場合、そのソナー表示に使用する振動子を選択できます。例えば、Garmin ClearVü データを提供する 2 つの振動子がある場合、Garmin ClearVü ソナー表示に使用する振動子を選択できます。

1 ソースを変更するソナー表示を選択します。

ソナー表示が組み合わせ画面にある場合は、変更する表示を選択する必要があります。

2 **MENU > 魚探設定 > ソース**を選択します。

3 このソナー表示のソースを選択します。

ソナーソース名を変更する

ソースの特定を簡単にするためにソナーソース名を変更できます。ソナーソースは、接続された振動子とチャートプロッターまたは音響器モジュールに関連付けられています。例えば、接続された振動子と船舶の船首に取り付けられているチャートプロッターの名前として"Bow"を使用できます。

1  **通信 > BlueNet™ネットワーク** の順に選択します。

2 名前を変更するチャートプロッターまたは音響器モジュールを選択します。

3 **名前の変更**を選択します。

4 名前を入力します。

ソナー表示の一時停止と再開

注意: ソナー表示を一時停止すると、ソナー表示を一時停止するデバイスのソナー表示にのみ影響します。振動子はソナー信号を送受信し続け、接続されている他のディスプレイにはライブソナーデータが表示され続けます。

ソナー表示で、ソナーのスクロール方向に矢印キーを押します。

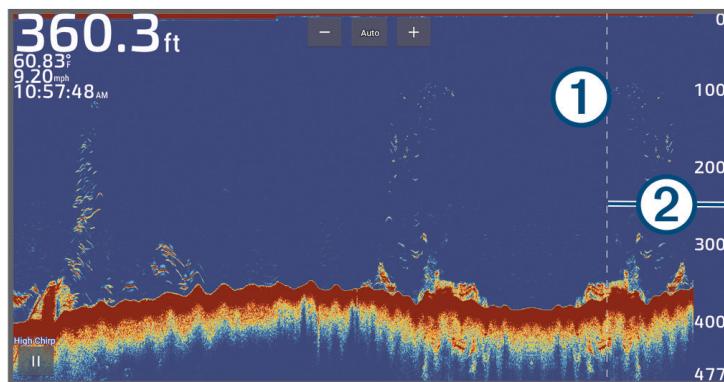
一時停止後にソナースクロールを再開するには、**BACK**を選択します。

ソナーの一時停止に関する注意事項

ソナー表示を一時停止すると、システムは引き続きソナー情報をバックグラウンドで収集します。ソナーのスクロールを再開すると、スクロールが一時停止している間に収集されたソナーデータがソナー表示で更新され、一時停止したポイントを示す線が表示されます。

ほとんどの場合、一時停止中に収集されたソナーデータは、スクロールを再開した直後に画面に表示されます。グラフ上でスクロールを一時停止した位置は、破線で表示されます。

表示されているソナーウィンドウの数、ソナー送信の速度と範囲、チャートプロッターの機能などの要因により、スクロールが一時停止された時間に応じて、保存されたソナーデータの量が削減される場合があります。スクロールがデバイスがデータを保持できるよりも長く一時停止すると、最後に記録されたポイントがグラフに実線で示されます。



	ソナースクロールが一時停止したことを示す線:
①	<ul style="list-style-type: none">破線: ソナーはここで一時停止され、そのラインの右側のすべてが一時停止中に継続的に記録されたことを示します。この線は、スクロールを再開した数秒後に消え、ソナー履歴には保持されません。実線: システム設定や一時停止の長さにより、すべてのソナーデータが継続的に記録されなかつたことを示します。これはソナー記録の中断を示しており、線の右側のデータのみが保持されています。この線は消えず、ソナー履歴に保持されます。
②	一時停止中に収集されたソナーデータ。

ソナー履歴を表示する

ソナーディスプレイをスクロールしてソナーデータの履歴を表示できます。

注意: 一部の振動子ではソナーデータの履歴は表示されません。

- 1 ソナー表示から、ソナー表示を一時停止します ([ソナー表示の一時停止と再開](#), 42 ページ)。
- 2 ソナーのスクロール方向に矢印キーを保持し、履歴を表示します。
- 3 履歴の終了およびソナースクロールの再開は、BACK を選択します。

ソナー画面上でウェイポイントを作成する

- 1 ソナー表示から、ソナー表示を一時停止します ([ソナー表示の一時停止と再開](#), 42 ページ)。
- 2 必要に応じて、ウェイポイントを作成する場所が見つかるまでソナー表示履歴をスクロールします。
- 3 ソナー表示で、ウェイポイントを作成する場所を選択します。
- 4 を選択します。
- 5 必要に応じて、ウェイポイント情報を編集します。

詳細度を調整する

一般的な変換器のゲインを調整するか、Garmin ClearVü 変換器の輝度を調整することで、ソナー画面に表示される詳細度とノイズを制御できます。

最強度の信号リターンを画面に表示する場合、ゲインまたは輝度を低くして低強度のリターンとノイズを除去します。すべてのリターン情報を表示する場合、ゲインまたは輝度を増加させて画面に情報をさらに表示します。これによってノイズも増加するため、実際のリターンを識別しづらくなる場合があります。

- 1 ソナー表示から、**MENU** を選択します。
- 2 感度または輝度を選択します。
- 3 次の中からオプションを選択します。
 - ・ ゲインまたは輝度を手動で増加または減少させるには、**アップ**または**ダウン**を選択します。
 - ・ 海図プロッタがゲインまたは輝度を自動的に調整できるようにするには、自動オプションを選択します。

色の強度を調整する

従来型振動子のカラーゲインまたは一部の振動子のコントラストを調整することで、ソナー画面で色の強度を調整し、関心領域を強調表示できます。ゲインまたは輝度の設定を使用して画面に表示される詳細度を調整すると、この設定が最もよく機能します。

ターゲットの小魚を強調表示するか、ターゲットを高強度で表示する場合、カラーゲインまたはコントラスト設定を増加させます。これにより底での高強度のリターンの識別で損失が発生します。リターンの強度を削減する場合、カラーゲインまたはコントラストを削減します。

- 1 ソナー表示から、**MENU** を選択します。
- 2 ソナー表示に基づいてオプションを選択します。
 - ・ コントラストを選択します。
 - ・ 魚探設定 > 表示 > カラーゲイン] の順に選択します。
- 3 次の中からオプションを選択します。
 - ・ 色の強度を手動で増加または減少させるには、**アップ**または**ダウン**を選択します。
 - ・ デフォルトの設定を使用するには、**既定値**を選択します。

ソナー設定

注意: 一部のモデルおよび振動子には適用できないオプションおよび設定があります。

これらの設定は次のタイプの振動子に適用されます。

- ・ 従来型
- ・ Garmin ClearVü

ソナー表示から、**MENU** > **魚探設定** の順に選択します。

送画速度: ソナーが右から左へスクロールするレートを設定します ([スクロール速度を設定する, 45 ページ](#))。

浅瀬では、遅いスクロール速度を選択して、情報が画面に表示される時間が長くなるようにします。水が深いところでは、速いスクロール速度を選択できます。自動スクロール速度では船舶の進行速度に合わせてスクロール速度が調整されます。

ノイズ除去: ソナー画面に表示される干渉とクラッタの量を削減します ([ソナーノイズ拒否設定, 46 ページ](#))。

表示: ソナー画面の外観を設定します ([ソナー表示設定, 47 ページ](#))。

アラーム: ソナーアラームを設定します ([ソナーアラーム, 47 ページ](#))。

アドバンス設定: さまざまなソナーディスプレイおよびデータソース設定を設定します ([ソナーの詳細設定, 48 ページ](#))。

インストール: 振動子を設定します ([振動子取り付け設定, 48 ページ](#))。

ソナー画面のズームレベルを設定する

1 ソナー表示から、MENU > ズーム > ... > モードの順に選択します。

2 次の中からオプションを選択します。

- ・ 深度とズームを自動的に設定するには、**自動**を選択します。

必要に応じて、**ズームの設定**を選択してズーム設定を変更します。拡大領域の深度範囲を設定するには、**上を表示**または**下を表示**を選択し、拡大領域の倍率を増減するには、**ズームイン**または**ズームアウト**を選択します。

- ・ 拡大領域の深度範囲を手動で設定するには、**手動**を選択します。

必要に応じて、**ズームの設定**を選択してズーム設定を変更します。拡大領域の深度範囲を設定するには、**上を表示**または**下を表示**を選択し、拡大領域の倍率を増減するには、**ズームイン**または**ズームアウト**を選択します。

- ・ 画面の特定領域を拡大するには、**拡大**を選択します。

必要に応じて、**拡大**を選択して倍率レベルを増減します。

ヒント: 拡大ボックスは画面上の新しい場所にドラッグできます。

- ・ 底の深度からのソナーデータにズームインするには、**海底固定**を選択します。

必要に応じて、**スパン**を選択してボトムロック領域の深度と配置を調整します。

ズームをキャンセルするには、ズームオプションを選択解除します。

ソナーの分割ズーム表示の有効化

ズームを自動、手動、または海底固定に設定した場合、分割ズーム表示を有効にして、標準表示とズームイン表示の両方を並べて表示できます。

ソナービューから、**ズーム > ... > 分割表示ズーム**の順に選択します。

分割ズーム表示を無効にするには、分割表示ズームを再度選択します。

スクロール速度を設定する

ソナー画像が画面を流れるレートを設定できます。スクロール速度が速いほど、表示できる追加情報がなくなるまで次々と情報が表示されます。表示できる追加情報がなくなると、既存の情報を利用します。これが役に立つのは、移動中やトローリング中、またはソナーが非常にゆっくりと反射する非常に水深の深い場所です。スクロール速度が遅いと、ソナー情報が画面に長く表示されます。

多くの場合、既定値設定によって画像のスクロールの速さとターゲットのゆがみの少なさのバランスがとれます。

1 ソナー表示から、MENU > **魚探設定** > **送画速度**の順に選択します。

2 次の中からオプションを選択します。

- ・ 対地速度を使用してスクロール速度を自動的に調整するには、[**自動**]を選択します。

自動設定によって、船舶速度と一致するスクロールレートが選択されるため、水中のターゲットが正確なアスペクト比で描画され、ゆがみが少なくなります。Garmin ClearVü/SideVü ソナービューを表示したり、構造物を探査する場合は、**自動**設定を使用することをお勧めします。

- ・ スクロール速度を上げるには、**アップ**を選択します。

- ・ スクロール速度を下げるには、**ダウン**を選択します。

範囲の調整

従来の表示および Garmin ClearVü ソナー表示の深度スケールの範囲を調整できます。

デバイスが範囲を自動的に調整できるようにすることで、底がソナー画面の下部または外側三分の一に固定され、地形の変化が最小限または中程度である底の追跡に便利です。

手動での範囲の調整によって指定の範囲を表示できるようになり、ドロップオフまたは崖などの地形の変化が大規模である底の追跡に便利です。底は、設定した範囲内にある限り画面に表示されます。

1 ソナー表示から、**MENU > 範囲**を選択します。

2 次の中からオプションを選択します。

- チャートプロッターが範囲を自動的に調整できるようにするには、**自動**を選択します。
- 範囲を手動で増加または減少させるには、**アップ**または**ダウン**を選択します。

ヒント: ソナー画面から、**+**または**-**を選択して、範囲を手動で調整できます。

ヒント: **+**または**-**を同時に選択して、自動調整モードと手動調整モードを切り替えることができます。

ヒント: 複数のソナー画面を表示している場合は、**SELECT**を選択してアクティブな画面を選択します。

ヒント: 単一のソナー画面を表示している場合は、**SELECT**を選択して、**+**キーと**-**キーのショートカットを変更できます。**SELECT**を繰り返し押すと、範囲、感度、または拡大のレベルを選択できます。

ソーナーノイズ拒否設定

ソナービューで、**MENU > 魚探設定 > ノイズ除去**の順に選択します。

干渉: 感度を調整して近くのノイズソースからの干渉の影響を抑えます。

干渉を画面から取り除くには、必要な改善を実現する最低の干渉設定を使用する必要があります。干渉を取り除くには、ノイズの原因となる取り付けの問題を修正するのが最善の方法です。

色制限: カラーパレットの一部を非表示にすると、微弱クラッタのフィールドを取り除くことができます。

色制限を不要な反射波の色に設定すると、画面上の不要な反射波の表示を取り除くことができます。

スムージング: 通常のソナー反射波に含まれないノイズを排除し、海底など反射波の外観を調整します。

スムージングを高く設定すると、干渉制御を使用している場合より多くの低レベルのノイズが残りますが、平均化によりノイズはより抑えられます。スムージングにより海底からのスペックルを排除できます。スムージングと干渉が連携して低レベルのノイズが排除されます。干渉とスムージングの設定を付加的に調整して、ディスプレイから不要なノイズを排除できます。

表層雜音: 表面ノイズを非表示にしてクラッタを削減できます。ビーム幅を広くすると(周波数を低くする)、表示されるターゲットの数が増えますが、より多くの表面ノイズが生成される場合があります。

TVG: 時間で変化するゲインを調整することで、ノイズを削減できます。

この制御は、水面近くのクラッタまたはノイズを制御および抑制する場合に最適です。また、表面ノイズで非表示またはマスクされる表面近くのターゲットを表示することができます。

ソナー表示設定

ソナー表示から、MENU > 魚探設定 > 表示の順に選択します。

カラースキーム: カラースキームを設定します。

カラーゲイン: 色の強度を調整します (色の強度を調整する, 44 ページ)。

A スコープ: 垂直のフラッシャーを画面の右側に沿って表示します。これにより、ターゲットまでの縮尺に沿った距離がすぐわかります。

水深線: すぐに参照できる深度線を表示します。

エッジ: 最も強い信号を下から強調表示し、信号の強弱を定義できるようにします。

魚記号: ソナーによる浮遊ターゲットの解釈方法を設定します。

	浮遊ターゲットを記号およびバックグラウンドソナー情報として表示します。
	浮遊ターゲットを記号として、ターゲット深度情報およびバックグラウンドソナー情報とともに表示します。
	浮遊ターゲットを記号として表示します。
	浮遊ターゲットをターゲット深度情報と共に記号として表示します。

ピクチャーアドバンス: 受信したソナーデータの列ごとに複数列のデータを画面に描画することにより、ソナー画像が高速に前進できるようになります。これは深海でソナーを使用している場合に特に役立ちます。ソナーの信号が海底まで移動して振動子に戻ってくるのに長い時間がかかるためです。

1/1 に設定すると、ソナーからの応答のたびに画面に 1 列の情報が描画されます。2/1 に設定すると、ソナーからの応答のたびに画面に 2 列の情報が描画されます。4/1 設定および 8/1 設定についても同様です。

オーバーレイデータ: ソナー画面に表示されるデータを設定します。

ソナーアラーム

⚠️ 警告

ソナーアラーム機能は状況認識のみに使用されるツールであり、すべての状況において座礁を回避できるわけではありません。ユーザーの責任において船舶を安全に運航させてください。

⚠️ 注意

アラーム音を鳴らすには、発信音設定をオンにする必要があります (サウンドおよびディスプレイ設定, 54 ページ)。アラーム音を設定しないと、負傷または物的損害の原因になる可能性があります。

注意: 一部の振動子には使用できないオプションがある場合があります。

該当するソナー表示から、MENU > 魚探設定 > アラームの順に選択します。

⚙️ > アラーム > ソナーの順に選択して、ソナーアラームを開くこともできます。

浅水域: 深さが指定した値より小さい場合にアラームが鳴るように設定します。

深水: 深さが指定した値より大きい場合にアラームが鳴るように設定します。

水温: 振動子から報告された温度が指定した温度より 1.1°C(2°F)高い、または低い場合にアラームが鳴るように設定します。

等深線: 振動子によって海面および海底からの指定した深度内に、止まっているターゲットが検出された場合にアラームが鳴るように設定します。

フィッシュ: デバイスによって、浮遊ターゲットが検出された場合にアラームが鳴るように設定します。

-  を設定して、あらゆる大きさの魚が検出された場合にアラームが鳴るようにします。
-  を設定して、中型または大型の魚が検出された場合にのみアラームが鳴るようにします。
-  を設定して、大型の魚が検出された場合にのみアラームが鳴るようにします。

ソナーの詳細設定

通常魚探ソナー表示から、MENU > 魚探設定 > アドバンス設定の順に選択します。

海底走査限界: 範囲設定が自動に設定されている場合に、海底の調査を選択した深さまでに制限します。海底の検出にかかる時間を最小限にするために、海底の調査を制限する深さを選択できます。デバイスは、選択した深さよりも深い範囲は調査しません。

レンジの同期 > オフ: 組み合わせ画面のすべてのソナー表示の範囲は、互いに無関係になります。

レンジの同期 > オン: この設定オプションは、少なくとも 2 つの従来型表示および Garmin ClearVü 表示を使用して、組み合わせ画面を表示している場合にのみ使用できます。範囲は、組み合わせ画面のすべての従来型表示および Garmin ClearVü 表示で同期されます。

レンジの同期 > 同じトランステューサーのみ: これはデフォルトの設定です。範囲は、組み合わせ画面の同一振動子の表示では同期されますが、異なる振動子間では同期されません。

注意: この設定は、デュアルバンドの CHIRP 振動子には適用されません。

スクロールの同期: この設定オプションは、少なくとも 2 つの従来型表示および Garmin ClearVü ソナー表示を使用して、組み合わせ画面を表示している場合にのみ使用できます。スクロールレートは、組み合わせ画面の 2 つの従来型表示および Garmin ClearVü 表示で同期されます。

振動子取り付け設定

これらの設定は次のタイプのソナーに適用されます。

- 通常魚探
- Garmin ClearVü

該当するソナービューで、オプションを選択します。

- 通常魚探ソナービューで、MENU > 魚探設定 > インストールの順に選択します。
- Garmin ClearVü ソナービューで、MENU > ClearVü のセットアップ > インストールの順に選択します。

ソナー設定をデフォルトに戻す: ソナー設定を工場出荷時の初期設定値に戻します。

振動子: 取り付けられている振動子の詳細を表示して、メモリーカードに詳細を保存します。

振動子 > モデルの変更: 取り付けられている振動子のタイプを変更できます ([振動子のタイプを選択](#), 42 ページ)。

振動子 > 手動設定: 互換性のあるソナーモジュールで、振動子手動設定パラメータを設定できます。振動子の接続と手動設定の詳細については、互換性のあるソナーモジュールのインストールガイドを参照してください。

ソナー周波数

注意: 使用可能な周波数は、使用している振動子によって異なります。

周波数を調整すると、ソナーを特定の目標と現在の水深に適用させやすくなります。

高周波数は狭いビーム幅を使用します。これは、高速での操作や海が荒れている状況に適しています。底の定義や水温躍層の定義は、高周波数を使用している場合に適しています。

低周波数は幅広いビーム幅を使用します。これにより、漁師は多くのターゲットを見つけることができるようになりますが、海が荒れた状況にあると表面ノイズが多く生成され、底の信号が途切れる可能性があります。ビーム幅が広いほど、ターゲットである魚のリターンに対するアーチが大きくなり、魚の場所の特定には理想的です。また広いビーム幅は深海での動作に適しています。それは低周波数では深海での通過率がすぐれているためです。

CHIRP 周波数により、周波数の範囲全体の各パルスをスイープでき、結果として深海でターゲットを適切に分離できます。CHIRP は、群れの中のそれぞれの魚などのターゲットを明確に特定するため、そして深海での応用に使用できます。CHIRP は一般的に、單一周波数の応用よりもすぐれています。魚のターゲットによっては、固定周波数を使用する方がうまく表示できる場合がありますが、CHIRP 周波数を使用する場合は目標と水の状況を考慮する必要があります。

一部の振動子にも、各振動子要素のプリセット周波数をカスタマイズする機能があります。これにより、水や目標が変化するにつれてプリセットを使用して周波数をすばやく変更できます。

周波数の分割表示を使用して 2 つの周波数を同時に表示すると、低周波数のリターンを詳細に表示できるのと同時に、高周波数のリターンの詳細も表示できます。

注意

ソナー周波数に関する地域の規制に必ず注意してください。例えば、シャチやクジラの群れを保護するために、シャチやクジラの群れの $\frac{1}{2}$ マイル以内では 50~80 kHz の周波数を使用することは禁止されています。お客様の責任において、適用法や条例に従ってデバイスを使用してください。

振動子の周波数の選択

注意: すべてのソナー表示と振動子の周波数を調整できるわけではありません。

ソナー画面に表示する周波数を選択することができます。

注意

ソナー周波数に関する地域の規制に必ず注意してください。例えば、シャチやクジラの群れを保護するために、シャチやクジラの群れの $\frac{1}{2}$ マイル以内では 50~80 kHz の周波数を使用することは禁止されています。お客様の責任において、適用法や条例に従ってデバイスを使用してください。

1 ソナービューで、MENU > 周波数を選択します。

2 ニーズと水深に適した周波数を選択します。

周波数の詳細については、[ソナー周波数](#)、48 ページを参照してください。

周波数プリセットを作成する

注意: 利用できない変換器もあります。

プリセットを作成して特定のソナー周波数を保存できることで、周波数をすばやく変更できます。

1 ソナービューで、MENU > 周波数を選択します。

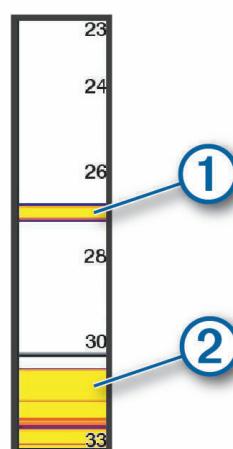
2 周波数の管理 > 新規プリセットを選択します。

3 周波数を入力します。

Aスコープの電源をオンにする

注意: この機能は、通常魚探ソナー表示で使用できます。

Aスコープは、ビューの右側にある垂直のフラッシャーで、今変換器の下にあるものを表示します。ポートが高速で移動するときなど、ソナーデータが画面をすばやくスクロールする場合に見逃す可能性があるターゲットの応答を、Aスコープを使用して識別できます。これは底の付近にいる魚を検出する際にも役立ちます。



上記の A スコープは、魚のリターン ① と柔らかい底のリターン ② を示しています。

1 ソナー表示から、MENU > 魚探設定 > 表示 > Aスコープの順に選択します。

2 必要に応じて、…> ピークホールドを選択して、ソナーリターンが表示される時間の長さを調整します。

ゲージとグラフ

ゲージとグラフは、エンジンと環境に関するさまざまな情報を提供します。情報を表示するには、互換性のある変換器またはセンサーをネットワークに接続する必要があります。

ゲージを表示する

- 1 ゲージを選択します。
- 2 船など、ゲージを選択します。



ゲージに表示されるデータを変更する

- 1 ゲージページを開きます。
- 2 MENU > ゲージページの編集の順に選択します。
- 3 編集対象のゲージを選択します。
- 4 データの置換を選択します。
- 5 データタイプを選択します。
- 6 表示するデータを選択します。

ゲージをカスタマイズする

ゲージページを追加したり、ゲージページのレイアウトを変更したり、ゲージの表示方法を変更したり、各ゲージのデータを変更したりできます。

- 1 ゲージページを開きます。
- 2 MENU > ゲージページの編集の順に選択します。
- 3 必要に応じて、編集するゲージビューまたはゲージを選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ ゲージに表示されたデータを変更するには、ゲージを選択して、データの置換を選択します。
 - ・ ページのゲージのレイアウトを変更するには、レイアウト変更を選択します。
 - ・ このセットのゲージページにページを追加するには、ページの追加を選択します。
 - ・ このページを元のビューに戻すには、初期設定表示に戻すを設定します。

トリップゲージを表示する

トリップゲージには、現在のトリップのオドメーター、速度、時間および燃料に関する情報が表示されます。

ゲージ > トリップの順に選択します。

トリップゲージをリセットする

1 MENU を選択します。

2 次のオプションを選択します：

- 現在のトリップのすべての表示をゼロに設定するには、**トリップのリセット**を選択します。
- 最高速度表示をゼロに設定するには、**最高速度のリセット**を選択します。
- オドメーターの表示をゼロに設定するには、**オドメーターの再設定**を選択します。
- すべての表示をゼロにリセットするには、**全再設定**を選択します。

グラフを表示する

温度や深度などさまざまな環境の変化を表すグラフを表示する前に、適切な振動子を本デバイスに接続する必要があります。

センサーデータのグラフを表示するには、新しい組み合わせページを作成するか、既存の組み合わせページにグラフを追加します。

1 新しい組み合わせページを作成するか、既存の組み合わせページを開きます ([組み合わせページをカスタマイズする, 6 ページ](#))。

2 グラフを追加するウィンドウを選択し、**グラフ**を選択します。

3 追加するグラフを選択します。

ヒント：アクティブな組み合わせウィンドウでグラフを変更するには、MENU > **グラフの変更**を選択し、新しいグラフを選択します。

グラフの範囲および時間のスケールを設定する

深度グラフ、風速グラフ、水温グラフに表示される時間の長さおよびセンサーデータの範囲を指定できます。

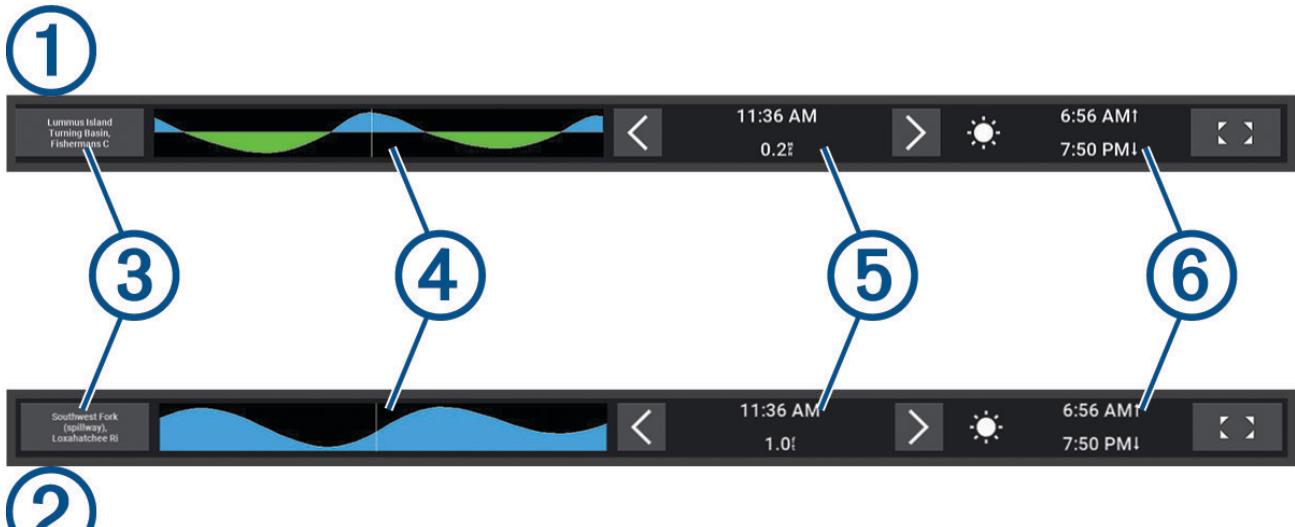
1 組み合わせページでグラフを選択し、MENU を選択します。

2 次のオプションを選択します。

- 経過時間スケールを設定するには、**期間**を選択します。初期設定は 10 分です。経過時間スケールを増やすと、より長い期間の変動を表示できます。経過時間スケールを減らすと、より短い期間の詳細を表示できます。
- グラフスケールを設定するには、**スケール**を選択します。スケールを増やすと、表示の変動をより多く表示できます。スケールを減らすと、変動の詳細を表示できます。

潮汐、潮流、および天体情報

潮汐と潮流のオーバーレイ



①	潮汐観測点オーバーレイバー。
②	潮流予報点オーバーレイバー。
③	選択した潮汐または潮流の観測点の名前。 別の潮汐または潮流の観測点に変更する場合に選択します。
④	潮汐または潮流の観測点のグラフ。
⑤	潮汐または潮流の観測点のグラフで白い線として表示される現在時刻。 ＜＞を選択して、潮汐または潮流の観測点のグラフの時間を調整できます。
⑥	現在の日の出と日の入りの時間。
⋮	選択すると、潮汐または潮流の観測点情報ページが開きます。

潮汐と潮流のオーバーレイの追加

- 1 オーバーレイを追加するページで、MENU > オーバーレイを編集するを選択します。
- 2 一番上のバー、下部バー、左側バー、または右側バーを選択します。
- 3 潮汐予報点または潮流を選択します。

潮汐観測点情報

⚠ 警告

潮汐および潮流の情報は情報提供のみを目的としています。掲載されているすべての水に関するガイドに留意し、周囲の状況を常に把握し、水中、水上、および周囲で常に安全な判断を行うことはお客様の義務です。この警告に従わないと、物的損害、重傷、または死亡につながるおそれがあります。

潮汐の高さや次の満潮と干潮の発生時期など、特定の日時の潮汐観測点に関する情報を表示できます。初期設定では、チャートプロッターの潮汐予報点オーバーレイバーに最近表示された潮汐観測点、現在の日付、および過去の時間の潮汐情報が示されます。

潮汐予報点オーバーレイバーから、【】を選択します。

潮流予報点情報

⚠ 警告

潮汐および潮流の情報は情報提供のみを目的としています。掲載されているすべての水に関するガイドに留意し、周囲の状況を常に把握し、水中、水上、および周囲で常に安全な判断を行うことはお客様の義務です。この警告に従わないと、物的損害、重傷、または死亡につながるおそれがあります。

注意：特定の詳細な地図を示す潮流予測点情報を利用できます。

潮流の速度や潮流のレベルなど、特定の日時の潮流予報点に関する情報を表示できます。初期設定では、チャートプロッターの潮流オーバーレイバーに最近表示された潮流予報点および現在の日付と時間の潮流情報が示されます（[潮汐と潮流のオーバーレイ、52 ページ](#)）。

潮流オーバーレイバーから、【】を選択します。

天体情報

日の出、日の入り、月の出、月の入り、月相、および空における太陽と月のおおよその表示位置に関する情報を表示できます。画面の中央は上空を表し、円の一番外側が水平線を表します。初期設定では、チャートプロッターに現在の日時の天体情報が表示されます。

潮汐予報点または潮流オーバーレイバーから【】を選択し、スカイビューを選択します。

別の日付の潮汐観測点、潮流予報点、および天体情報を表示する

- 1 潮汐予報点または潮流オーバーレイバーから、【】を選択します。
- 2 天体情報を表示するには、スカイビューを選択します。
- 3 次のオプションを選択します。
 - ・ 別の日付の情報を表示するには、日付変更を選択し、日付を入力します。
 - ・ 今日の情報を表示するには、現在の日付と時間を選択します。
 - ・ 指定可能な場合、表示されている日の翌日の情報を表示するには、次の日を選択します。
 - ・ 指定可能な場合、表示されている日付の前の日の情報を表示するには、前日を選択します。

別のステーション（潮汐観測点または潮流予報点）の情報を表示する

- 1 潮汐予報点または潮流オーバーレイバーから、【】を選択します。
- 2 近隣のポイントを選択します。
- 3 ステーションを選択します。

ナビゲーションチャートから暦情報を表示する

- 1 チャートまたは3Dチャートビューから、ステーション（潮汐観測点または潮流予報点）アイコンを選択します。
- 2 ステーション名を選択します。

デバイス設定

システム設定

 > システムの順に選択します。

サウンドおよび表示: ディスプレイ設定とオーディオ設定を調整します(利用可能な場合)。

衛星測位: GPS 衛星および設定に関する情報を提供します。

システム情報: ネットワーク上のデバイスおよびソフトウェアバージョンに関する情報を提供します。

自動電源オン: 電源投入時に自動的にオンにするデバイスを制御します。

自動電源オフ: スリープ状態が選択した時間続いたら、システムの電源を自動的にオフにします。

シミュレーター: シミュレーターをオンまたはオフにして、時刻、日付、速度、およびシミュレートされた場所を設定できます。

サウンドおよびディスプレイ設定

 > システム > サウンドおよび表示の順に選択します。

発信音: アラームおよび選択時に聞こえる音をオン/オフします。

バックライト: バックライトの輝度を設定します。自動オプションを選択すると、バックライトの輝度を周囲光に応じて自動調整できます。

デザイン: デバイスが昼または夜の色を表示するように設定します。自動オプションを選択すると、時刻に応じて、デバイスを昼または夜の色に自動設定できます。

開始画像: デバイスの電源オン時に表示される画像を設定します。

スタートアップレイアウト: デバイスの電源オン時に表示されるレイアウトを設定します。

衛星測位(GPS)設定

 > システム > 衛星測位の順に選択します。

ソース: GPS のデータに適したソースを選択することができます。

速度フィルタ: 短時間の船舶の平均速度を算出し滑らかな速度値を提供します。

WAAS/EGNOS: WAAS(北アメリカ)のデータまたは EGNOS(ヨーロッパ)のデータをオンまたはオフにすると、より正確な GPS 位置情報を提供できます。WAAS または EGNOS のデータを使用すると、デバイスが衛星を捕捉する時間が長くなる場合があります。

測位モード > GPS: GPS ソースは、GPS 衛星のみを位置データに使用します。

測位モード > GPS と GLONASS: GPS ソースは、GPS 衛星と GLONASS(ロシアの衛星システム)の両方を位置データに使用します。空の視界が悪い状況でシステムを使用する場合、GLONASS のデータを GPS と組み合わせることでより正確な位置情報を提供することができます。

測位モード > マルチコンステレーション: GPS ソースは、利用可能なすべての衛星コンステレーションからの GPS データを位置データに使用します。

測位モード > マルチコンステレーションとマルチ周波数: GPS ソースは、利用可能なすべての衛星コンステレーションからの GPS データと、L1 と L5 の両方の周波数を位置データに使用します。

システムソフトウェア情報の表示

ソフトウェアバージョン、ベースマップバージョン、すべての補足地図情報(該当する場合)、およびユニット ID 番号を表示できます。この情報は、システムソフトウェアを更新する場合や、追加の地図データ情報を購入する場合に必要となることがあります。

 > システム > システム情報 > ソフトウェア情報の順に選択します。

イベントログの表示

イベントログには、システムイベントのリストが表示されます。

1  > システム > システム情報 > イベントログの順に選択します。

2 必要に応じて、リストでイベントを選択し、レビューを選択してイベントの詳細を表示します。

イベントの並べ替え、filtratingする

- 1 イベントログから、並べ替え基準を選択します。
- 2 イベントログを並べ替える、またはfiltratingするオプションを選択します。

イベントをメモリーカードに保存する

- 1 メモリーカードをカードスロットに挿入します。
- 2 イベントログから、カードに保存するを選択します。

イベントログからのすべてのイベントを消去する

イベントログから、イベントログクリアを選択します。

E ラベルの規制およびコンプライアンス情報の表示

このデバイスのラベルは電子的に添付されています。E ラベルには、FCC または地域のコンプライアンスマークによって提供される識別番号、適用製品およびライセンス情報などの規制情報が記載されている場合があります。すべてのモデルに該当するわけではありません。

- 1 を選択します。
- 2 システムを選択します。
- 3 規制情報を選択します。

環境設定

> 環境設定の順に選択します。

単位: 測定単位を設定します。

言語: 画面に表示されるテキストの言語を設定します。

ナビゲーション: ナビゲーションの環境設定を行います。

キーボード配列: オンスクリーンキーボードのキーの配置を変更します。

キャプチャ: 画面の画像を保存できます。

単位設定

> 環境設定 > 単位の順に選択します。

システムユニット: デバイスの単位形式を設定します。例えば、カスタム > 深度 > ファズムの順に選択すると、深度の単位形式がファズムに設定されます。

北基準分散: 現在の場所の磁気偏角、つまり磁北と真北のなす角度を設定します。

方位基準: 方向情報の計算に使用する方向の基準を設定します。真を選択すると、地理的な北が北の基準として設定されます。グリッドを選択すると、グリッド北が北の基準(000°)として設定されます。磁北を選択すると、磁北が北の基準として設定されます。

位置フォーマット: 指定された場所の測定値を表示する際の位置フォーマットを設定します。別の位置フォーマットを指定する地図や海図を使用していない限り、この設定は変更しないでください。

測地系: 地図の構築に使用する座標系を設定します。別の地図の基準面を指定する地図や海図を使用していない限り、この設定は変更しないでください。

時刻: 時間表示、タイムゾーン、およびサマータイムを設定します。

ナビゲーション設定

注意: 一部の設定およびオプションには、追加の海図やハードウェアが必要です。

 > 環境設定 > ナビゲーションの順に選択します。

ルートラベル: 地図上でルートの方向転換と共に表示されるラベルのタイプを設定します。

変針の移行: チャートプロッターで次の方向転換や区間またはルートに移行する方法を調整します。方向転換の前に時間または距離に基づくようにトランジションを設定できます。方向転換の多いルートまたは Auto Guidance ラインをナビゲーションするときや、高速でナビゲーションするときに、自動操舵の精度が向上するように、時間または距離の値を増やすことができます。まっすぐなルートや低速の場合は、この値を減らすと、自動操舵の精度を向上させることができます。

速度ソース: 速度測定値のソースを設定します。

Auto Guidance: 特定のプレミアム地図を使用する場合は、推奨深度、垂直クリアランス、および海岸線距離の測定値を設定します。

ルートスタート: ルートナビゲーションの始点を選択します。

オートガイダンス経路の設定

△ 注意

推奨深度と垂直クリアランスの設定は、チャートプロッターが Auto Guidance 経路を計算する方法に影響します。Auto Guidance 経路のセクションが推奨深度よりも浅いか、または垂直クリアランス設定よりも低い場合、Auto Guidance 経路のセクションは Garmin Navionics+ および Garmin Navionics Vision+ チャートではオレンジの実線または赤の縞模様の線で表示され、以前のバージョンではマゼンタとグレーの縞模様の線で表示されます。船舶がこうしたエリアの 1 つに進入すると、警告メッセージが表示されます ([ルートカラーコーディング、26 ページ](#))。

注意: プレミアムチャートでは、海域によって、Auto Guidance を使用できます。

注意: すべての設定がすべての地図に適用されるわけではありません。

チャートプロッターが Auto Guidance 経路を計算するときに使用するパラメータを設定できます。

 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance の順に選択します。

推奨深度: チャートの深度データに基づいて、船舶が安全に航行できる最低限の水深を設定します。

注意: (2016 年よりも前に作成された) プレミアムチャートの最低水深は 0.9144 メートルです。0.9144 メートル未満の値を入力しても、チャートでは、Auto Guidance 経路の計算に 0.9144 メートルの深度のみが使用されます。

垂直クリアランス: チャートデータに基づいて、船舶が安全に下を通過できる橋または障害物の最低限の高さを設定します。

海岸線距離: Auto Guidance 経路を海岸線にどの程度近づけるかを設定します。ナビゲーション中にこの設定を変更すると、Auto Guidance 経路が移動する場合があります。この設定に使用できる値は、絶対的な値ではなく、相対的な値です。Auto Guidance 経路が海岸線から適切な距離を隔てた位置に配置されるように、狭い水路のナビゲーションが必要になる 1 箇所以上の既知の目的地を使用して、Auto Guidance 経路の配置を評価することができます ([海岸線からの距離を調整する、35 ページ](#))。

海岸線からの距離を調整する

海岸線距離の設定は、Auto Guidance ラインを海岸線にどの程度近づけるかを示します。ナビゲーション中にこの設定を変更すると、Auto Guidance ラインが移動する場合があります。海岸線距離の設定に使用できる値は、絶対的な値ではなく、相対的な値です。Auto Guidance ラインが海岸線から適切な距離を隔てた位置に配置されるようにするために、狭い水路のナビゲーションが必要になる複数の既知の目的地を使用して、Auto Guidance ラインの配置を評価します。

- 1 船舶をドックに入れるか、錨を下ろします。
- 2  > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 標準の順に選択します。
- 3 以前のナビゲーション先の目的地を選択します。
- 4 ナビ開始 > Auto Guidance の順に選択します。
- 5 Auto Guidance ラインの配置を確認し、ラインが既知の障害物を回避して、方向転換により効率的な航行が可能になっているかどうかを判定します。
- 6 次の中からオプションを選択します。
 - ・ Auto Guidance ラインの配置が適切である場合は、MENU > ナビゲーションオプション > ナビゲーション中止の順に選択し、手順 10 に進みます。
 - ・ ラインが既知の障害物に接近しすぎている場合は、 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 遠いの順に選択します。
 - ・ ラインの方向転換が大回りすぎる場合は、 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 近くにの順に選択します。
- 7 手順 6 で近くにまたは遠いを選択した場合は、Auto Guidance ラインの配置を確認し、ラインが既知の障害物を回避して、方向転換により効率的な航行が可能になっているかどうかを判定します。
Auto Guidance の設定を海岸線距離または近くにに設定した場合でも、最も近いは、開けた水域で障害物から十分なクリアランスを保ちます。その結果、狭い水路を通過して選択済みの目的地にナビゲーションする必要がない限り、チャートプロッターは Auto Guidance ラインを再配置しません。
- 8 次の中からオプションを選択します。
 - ・ Auto Guidance ラインの配置が適切である場合は、MENU > ナビゲーションオプション > ナビゲーション中止の順に選択し、手順 10 に進みます。
 - ・ ラインが既知の障害物に接近しすぎている場合は、 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 最も遠いの順に選択します。
 - ・ ラインの方向転換が大回りすぎる場合は、 > 環境設定 > ナビゲーション > Auto Guidance > 海岸線距離 > 最も近いの順に選択します。
- 9 手順 8 で最も近いまたは最も遠いを選択した場合は、Auto Guidance ラインの配置を確認し、ラインが既知の障害物を回避して、方向転換により効率的な航行が可能になっているかどうかを判定します。
Auto Guidance の設定を海岸線距離または近くにに設定した場合でも、最も近いは、開けた水域で障害物から十分なクリアランスを保ちます。その結果、狭い水路を通過して選択済みの目的地にナビゲーションする必要がない限り、チャートプロッターは Auto Guidance ラインを再配置しません。
- 10 海岸線距離の設定機能に慣れるまでは毎回、異なる目的地を使用して、手順 3~9 を少なくとももう一度繰り返してください。

通信設定

接続されているデバイスの表示

デバイスが接続されている、またはデバイスとペアリングされているチャートプロッターなど、船舶上の接続されているデバイスのリストを表示できます。

- 1  > 通信を選択します。
- 2 ネットワークを選択します。
- 3 機器リストを選択します。

ネットワークデバイスのリストが表示されます。デバイスが特定のチャートプロッターに接続またはペアリングされている場合、チャートプロッターの名前がデバイス名とともに表示されます。

アラートの設定

△ 注意

アラーム音を鳴らすには、発信音設定をオンにする必要があります (サウンドおよびディスプレイ設定, 54 ページ)。アラーム音を設定しないと、負傷または物的損害の原因になる可能性があります。

ナビゲーションアラート

⚙ > アラーム > ナビゲーションの順に選択します。

到着: 方向転換または目的地まで指定した距離または時間になったときにアラートを鳴らすよう設定します。

アンカー移動: 鎆泊時に指定した偏流距離を超えたときにアラートを鳴らすよう設定します。

△ 警告

走錨アラートは状況認識のみに使用されるツールであり、すべての状況において座礁または衝突を回避できるわけではありません。ユーザーには、船舶の安全かつ慎重な操作、周囲の状況の把握、および常に安全な判断を行う責任があります。

航路離脱: 指定した距離だけコースから外れたときにアラートを鳴らすよう設定します。

境界アラーム: すべての境界アラームを無効／有効にします。

走錨アラートの設定

許容範囲外(アラーム設定時に設定)に移動した場合にアラームを鳴らすように設定できます。

△ 警告

走錨アラートは状況認識のみに使用されるツールであり、すべての状況において座礁または衝突を回避できるわけではありません。ユーザーには、船舶の安全かつ慎重な操作、周囲の状況の把握、および常に安全な判断を行う責任があります。この警告に従わないと、物的損害、重傷、または死亡につながるおそれがあります。

△ 注意

アラーム音を鳴らすには、発信音設定をオンにする必要があります (サウンドおよびディスプレイ設定, 54 ページ)。アラーム音を設定しないと、負傷または物的損害の原因になる可能性があります。

1 ⚙ > アラーム > ナビゲーション > アンカー移動の順に選択します。

2 アラームを選択して、アラートをオンにします。

3 半径の設定を選択し、海図上の距離を選択します。

4 BACK を選択します。

システムアラート

⚙ > アラーム > システムを選択します。

ユニット電圧: バッテリーが指定した低電圧になったときにアラームを鳴らすよう設定します。

GPS 精度: GPS 位置精度がユーザー定義の値の範囲外になったときにアラームを鳴らすよう設定します。

ソナーアラーム

△ 警告

ソナーアラーム機能は状況認識のみに使用されるツールであり、すべての状況において座礁を回避できるわけではありません。ユーザーの責任において船舶を安全に運航させてください。

△ 注意

アラーム音を鳴らすには、発信音設定をオンにする必要があります (サウンドおよびディスプレイ設定, 54 ページ)。アラーム音を設定しないと、負傷または物的損害の原因になる可能性があります。

注意: 一部の振動子には使用できないオプションがある場合があります。

該当するソナー表示から、**MENU > 魚探設定 > アラーム** の順に選択します。

 **アラーム > ソナー** の順に選択して、ソナーアラームを開くこともできます。

浅水域: 深さが指定した値より小さい場合にアラームが鳴るように設定します。

深水: 深さが指定した値より大きい場合にアラームが鳴るように設定します。

水温: 振動子から報告された温度が指定した温度より 1.1°C (2°F) 高い、または低い場合にアラームが鳴るように設定します。

等深線: 振動子によって海面および海底からの指定した深度内に、止まっているターゲットが検出された場合にアラームが鳴るように設定します。

フィッシュ: デバイスによって、浮遊ターゲットが検出された場合にアラームが鳴るように設定します。

-  を設定して、あらゆる大きさの魚が検出された場合にアラームが鳴るようにします。
-  を設定して、中型または大型の魚が検出された場合にのみアラームが鳴るようにします。
-  を設定して、大型の魚が検出された場合にのみアラームが鳴るようにします。

船舶設定の設定

注意: 一部の設定およびオプションには、追加の海図やハードウェアが必要です。

 **船舶設定** の順に選択します。

振動子: ネットワーク上の振動子をすべて表示し、振動子を変更したり、診断情報を表示したりできます (**振動子のタイプを選択**, 42 ページ)。

温度オフセット: 接続されている水温センサーまたは温度対応振動子の水温測定値を補正するためのオフセット値を設定できます (水温オフセットの設定, 60 ページ)。

船体識別番号: 船体識別番号(HIN)を入力できます。HIN は、トランサムの上部右舷側または船外機側に完全に貼り付けられている場合があります。

キールオフセットを設定する

キールオフセットを入力して、振動子の取り付け位置の水深測定値を補正できます。これにより、必要に応じて、キールの下の水深または真の水深を表示できます。

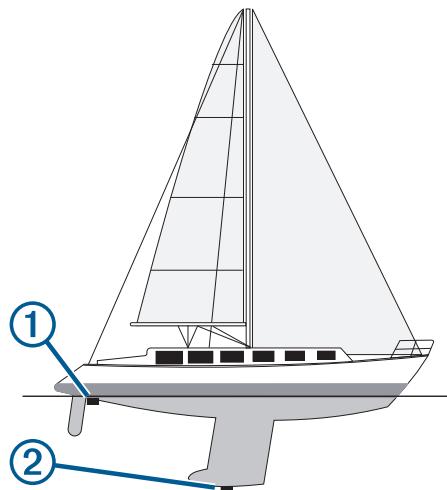
キールの下、またはボートの最も低い位置の下の水深を知りたい場合で、振動子が喫水線、またはキールの末尾よりも上の位置に取り付けられている場合、振動子の位置からボートのキールまでの距離を測定します。

真の水深を知りたい場合に振動子が喫水線の下に取り付けられている場合は、振動子の最下部から喫水線までの距離を測定します。

注意: このオプションは、有効な深度データがある場合にのみ使用できます。

1 次のようにして距離を測定します。

- ・ 振動子が喫水線 ① またはキールの末尾よりも上の位置に取り付けられている場合は、振動子の位置からボートのキールまでの距離を測定します。この値を正の数として入力します。
- ・ 振動子がキール ② の最下部に取り付けられていて、真の水深を知りたい場合は、振動子から喫水線までの距離を測定します。この値を負の数として入力します。



2 次の手順を実行します。

- ・ 振動子がチャートプロッターまたはソナーモジュールに接続されている場合は、⚙️ > 船舶設定 > キールオフセットの順に選択します。
- 3 振動子が喫水線の位置に取り付けられている場合は、+ を選択し、振動子がキールの最下部に取り付けられている場合は、- を選択します。
- 4 矢印キーを使用して、ステップ 1 で測定したキールオフセットを入力します。

水温オフセットの設定

温度オフセットは、温度センサーまたは温度対応振動子の温度測定値を補正します。

1 ネットワークに接続されている温度センサーまたは温度対応振動子を使用して、水温を測定します。

2 正確であるとわかっている別の温度センサーまたは温度計を使用して、水温を測定します。

3 手順 2 で測定した水温から手順 1 で測定した水温を減算します。

この値が温度オフセットです。センサーで測定された水温が実際よりも低い場合は、手順 5 でこの値を正の数として入力します。センサーで測定された水温が実際よりも高い場合は、手順 5 でこの値を負の数として入力します。

4 ⚙️ > 船舶設定 > 温度オフセットの順に選択します。温度オフセットの順に選択します。

5 手順 3 で算出された温度オフセット値を入力します。

チャートプロッターの工場出荷時の初期設定の復元

注意: これはネットワーク上のすべてのデバイスに影響します。

- 1  > システム > システム情報 > リセットの順に選択します。
- 2 次の中からオプションを選択します。
 - ・ デバイス設定を工場出荷時設定値にリセットするには、初期設定にリセットを選択します。これによりデフォルトの構成設定が復元されますが、保存されているユーザーデータ、マップ、またはソフトウェア更新は削除されません。
 - ・ ウェイポイントやルートなどの保存されたデータを消去するには、ユーザーデータを削除を選択します。これはマップやソフトウェア更新には影響しません。
 - ・ 保存されているデータを消去し、デバイス設定を工場出荷時の初期設定値にリセットするには、チャートプロッターを Garmin Marine Network から切断し、データ削除と設定リセットを選択します。これはマップやソフトウェア更新には影響しません。

ユーザーデータの共有と管理を行う

警告

この機能を使用すると、サードパーティによって生成された可能性のある他のデバイスからのデータをインポートできます。Garmin は、第三者によって作成されたデータの正確性、完全性、または適時性についていかなる表明も行いません。このようなデータについては、お客様ご自身の責任で信頼、ご利用ください。

互換性のあるデバイス間ではユーザーデータを共有できます。ユーザーデータには、ウェイポイント、保存済みのトラック、ルート、および境界が含まれます。

- ・ メモリーカードを使用して異なるデバイス間でユーザーデータを共有および管理できます。使用するメモリーカードは、ユーザーデータを共有するすべてのデバイスに対応したファイル形式でフォーマットされている必要があります。たとえば、FAT32 形式のカードのみをサポートするデバイスと、exFAT フォーマット形式のカードをサポートするデバイスがある場合は、両方のデバイスで読み取ることができるよう FAT32 形式のカードを使用する必要があります ([メモリーカードを挿入する](#), 4 ページ)。

サードパーティのウェイポイントおよびルートに対するファイルタイプの選択

サードパーティ製デバイスとの間でウェイポイントやルートをインポートおよびエクスポートできます。

- 1 メモリカードをカードスロットに挿入します。
- 2  > ユーザーデータを管理する > データ転送 > ファイルタイプの順に選択します。
- 3 GPX を選択します。

Garmin デバイスでデータを再度転送するには、ADM ファイルタイプを選択します。

メモリカードからのデータのコピー

メモリカードを使用してユーザーデータを別のデバイスから転送できます。

- 1 メモリカードをカードスロットに挿入します。
- 2  > ユーザーデータを管理する > データ転送の順に選択します。
- 3 必要に応じて、データをコピーするメモリカードを選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ メモリカードからチャートプロッタにデータを転送し、既存のユーザーデータと統合するには、カードから内蔵データに追加統合を選択します。
 - ・ メモリカードからチャートプロッタにデータを転送し、既存のユーザーデータを上書きするには、カードから内蔵データを書換を選択します。
- 5 ファイル名を選択します。

メモリーカードへの全ユーザーデータのコピー

デバイスにある全ユーザーデータをメモリーカードに保存して、別のデバイスに転送できます。

- 1 メモリーカードをカードスロットに挿入します。
- 2 > ユーザーデータを管理する > データ転送 > カードにすべて保存の順に選択します。
- 3 必要に応じて、データのコピー先にするメモリカードを選択します。
- 4 次の中からオプションを選択します。
 - ・ 新しいファイルを作成するには、新ファイル追加を選択し、名前を入力します。
 - ・ 既存のファイルに情報を追加するには、リストからファイルを選択し、カードに保存するを選択します。

指定エリアからメモリーカードへのユーザーデータのコピー

ユーザーデータを指定エリアからメモリーカードに保存して、別のデバイスに転送できます。

- 1 メモリーカードをカードスロットに挿入します。
- 2 > ユーザーデータを管理する > データ転送 > カードにエリアを保存の順に選択します。
- 3 次の中からオプションを選択します。
 - ・ 転送するユーザーデータが含まれているエリア境界を以前に定義した場合は、エリアの名前を選択し、エリアを選択します。
 - ・ 転送するユーザーデータが含まれている新しいエリアを定義する場合は、新しいエリアを選択し、画面の指示に従ってエリアを定義します。
- 4 カードにエリアを保存を選択します。
- 5 必要に応じて、データのコピー先にするメモリカードを選択します。
- 6 次の中からオプションを選択します。
 - ・ 新しいファイルを作成するには、新ファイル追加を選択し、名前を入力します。
 - ・ 既存のファイルに情報を追加するには、リストからファイルを選択し、カードに保存するを選択します。

メモリーカードと Garmin Express を使用したビルトインマップの更新

Garmin Express コンピュータアプリケーションとメモリーカードを使用して、ビルトインマップを更新できます。

- 1 メモリーカードをコンピュータのカードスロットに挿入します（[メモリーカードを挿入する](#), 4 ページ）。
- 2 Garmin Express アプリケーションを開きます。
お使いのコンピュータに Garmin Express アプリケーションがインストールされていない場合は、garmin.com/express からダウンロードできます。
- 3 必要に応じて、お使いのデバイスを登録します（[Garmin Express アプリを使用してデバイスを登録する](#), 65 ページ）。
- 4 船舶 > 詳細の表示の順にクリックします。
- 5 更新するマップの横にあるダウンロードをクリックします。
- 6 画面上の指示に従って、ダウンロードを完了します。
- 7 更新がダウンロードされている間待ちます。
更新には長時間かかることもあります。
- 8 ダウンロードが完了したら、コンピュータからカードを取り出します。
- 9 メモリーカードをカードスロットに挿入します（[メモリーカードを挿入する](#), 4 ページ）。
- 10 チャートプロッターで、 > システム > システム情報 > アップデート内蔵地図を選択します。
更新されたチャートがチャートプロッターに表示されます。

コンピュータへのデータのバックアップ

- 1 メモリカードをカードスロットに挿入します。
- 2 > ユーザーデータを管理する > データ転送 > カードに保存するの順に選択します。
- 3 リストからファイル名を選択し、新ファイル追加を選択します。
- 4 カードに保存するを選択します。
- 5 メモリカードを取り外し、コンピュータに接続されているカードリーダーに挿入します。
- 6 メモリカード上の Garmin\ UserData フォルダを開きます。
- 7 カード上のバックアップファイルをコピーし、コンピュータ上の任意の場所に貼り付けます。

海図プロッタへのバックアップデータの復元

- 1 コンピュータに接続されているカードリーダーにメモリカードを挿入します。
- 2 コンピュータからメモリカード上の Garmin\ UserData というフォルダにバックアップファイルをコピーします。
- 3 メモリカードをカードスロットに挿入します。
- 4 > ユーザーデータを管理する > データ転送 > カードから内蔵データを書換の順に選択します。

メモリーカードへのシステム情報の保存

トラブルシューティングツールとしてシステム情報をメモリーカードに保存できます。この情報を使用してネットワークに関するデータを取得するように、製品サポート担当者がお客様にお願いすることがあります。

- 1 メモリーカードをカードスロットに挿入します。
- 2 > システム > システム情報 > Garmin デバイス > カードに保存するの順に選択します。
- 3 必要に応じて、システム情報を保存するメモリーカードを選択します。
- 4 メモリーカードを取り外します。

付録

お取り扱い上の注意事項

注意

デバイスを清掃するときは、先端の尖ったものは使用しないでください。

化学洗剤、溶媒、防虫剤は使用しないでください。プラスチック部品が損傷したり製品表面が傷いたりする可能性があります。

塩素、塩水、日焼け防止剤、化粧品、アルコール、または他の刺激の強い化学薬品にさらされた後は、デバイスを淡水で完全に洗浄してください。これらの物質に長時間さらされると、ケースが損傷することがあります。

タッチスクリーンの操作に硬いものやとがったものは絶対に使用しないでください。スクリーンを傷つける恐れがあります。

画面のクリーニング

注意

アンモニアを含む洗浄剤は反射防止コーティングを傷つけます。

このデバイスは、ワックスおよび研磨洗浄剤に非常に弱い特別な反射防止コーティングで被覆されています。

- 1 反射防止コーティングに対して安全と指定された眼鏡レンズクリーナーを布に塗布します。
- 2 柔らかく清潔な糸くずの出ない布で、力を入れずに画面を拭きます。

ActiveCaptain と Garmin Express

ActiveCaptain および Garmin Express アプリを使用すると、Garmin チャートプロッターやその他のデバイスを管理できます。

ActiveCaptain: ActiveCaptain モバイルアプリを利用すると、対応のモバイルデバイスと Garmin チャートプロッター、チャート、Garmin QuickdrawContours コミュニティを簡単に接続し使用できます ([ActiveCaptain® アプリ, 8 ページ](#))。このアプリを使用すると、地図に無制限にアクセスしたり、OneChart™ 機能を使用してモバイル端末で新しいチャートを迅速にダウンロードしたりすることができます。また、チャートプロッターで通知を受信するためのリンクを提供したり、マリーナやその他のボート関連の主要ポイントに関するフィードバック入手するために ActiveCaptain コミュニティにアクセスできます。このアプリを使用すると、旅行の計画を立てたり、ユーザーデータを同期することもできます。このアプリは、利用可能な更新がないかデバイスをチェックし、更新が利用可能になると通知します。

Garmin Express: Garmin Express デスクトップアプリで、コンピュータとメモリーカードを使用して、Garmin チャートプロッターソフトウェアとチャートをダウンロードして更新できます ([Garmin Express アプリ, 64 ページ](#))。大容量のダウンロードと更新を高速に転送する場合や、一部のデバイスで発生する可能性のあるデータ通信料金を回避するには、Garmin Express アプリを使用します。

機能	ActiveCaptain モバイルアプリ	Garmin Express デスクトップアプリ
新しい Garmin 海洋デバイスを登録する	はい	はい
Garmin チャートプロッターソフトウェアを更新する	はい	はい
Garmin チャートを更新する	はい	はい
新しい Garmin チャートをダウンロードする	はい	はい
Garmin Quickdraw Contours コミュニティにアクセスして、地図をダウンロードしたり他のユーザーと共有する	はい	いいえ
モバイルデバイスと Garmin チャートプロッターと同期する	はい	いいえ
マリーナや船舶の主要ポイントに関するフィードバックのために ActiveCaptain コミュニティにアクセスする	はい	いいえ

Garmin Express アプリ

Garmin Express デスクトップアプリを使用すると、コンピュータとメモリーカードを使用して、Garmin デバイスソフトウェアとチャートをダウンロードおよび更新し、デバイスを登録できます。データ転送を高速化し、一部のモバイルデバイスで発生する可能性のあるデータ料金を回避するために、大規模なダウンロードや更新の場合にお勧めします。

コンピュータへの Garmin Express アプリのインストール

Garmin Express アプリを Windows® または Mac® コンピュータにインストールできます。

- 1 garmin.com/express にアクセスします。
- 2 ダウンロード(Windows)またはダウンロード(Mac)を選択します。
- 3 画面に表示される手順に従います。

Garmin Express アプリを使用してデバイスを登録する

注意: デバイスを登録するには、ActiveCaptain アプリとモバイルデバイスを使用してください (ActiveCaptain アプリの操作手順, 9 ページ)。

今すぐオンライン登録を完了していただければ、お客様へのサポートはさらに容易になります。購入時のレシートの原本またはコピーは安全な場所に保管しておいてください。

- 1 コンピュータに Garmin Express アプリをインストールします ([コンピュータへの Garmin Express アプリのインストール, 64 ページ](#))。
- 2 チャートプロッターカードスロットにメモリーカードを挿入します ([メモリーカードを挿入する, 4 ページ](#))。
- 3 しばらく待ちます。
チャートプロッターでカード管理ページが開き、メモリーカードの Garmin フォルダに GarminDevice.xml というファイルが作成されます。
- 4 デバイスからメモリーカードを取り出します。
- 5 コンピュータで Garmin Express アプリを開きます。
- 6 メモリーカードをコンピュータに挿入します。
- 7 必要に応じて、**使い始める**を選択します。
- 8 必要に応じて、アプリケーションの検索時に、サインインの横にある**海図または海洋デバイスをお持ちですか？**を選択します。
- 9 Garmin アカウントを作成するか、またはサインインします。
- 10 画面の指示に従い、船舶を設定します。

11 > 追加の順に選択します。

Garmin Express アプリケーションによってメモリーカードが検索され、そこに記録されているデバイス情報が照会されます。

12 デバイスの追加を選択してデバイスを登録します。

登録が完了すると、Garmin Express アプリケーションによって、デバイスに対応した追加の海図や海図の更新が検索されます。

デバイスをチャートプロッターのネットワークに追加する場合は、Garmin Express アプリを使用し、上記の手順を繰り返して新しいデバイスを登録します。

Garmin Express アプリを使用してチャートを更新する

ソフトウェアバージョン 34.00 より、このデバイスは速度クラス 10 以上の exFAT にフォーマットされた最大 1 TB の microSD メモリーカードに対応しています。

チャート更新のダウンロードには数時間かかる場合があります。

チャートの更新には空のメモリーカードを使用してください。更新プロセスでは、カード上のコンテンツが消去され、カードが再フォーマットされます。

- 1 コンピュータに Garmin Express アプリをインストールします ([コンピュータへの Garmin Express アプリのインストール, 64 ページ](#))。
- 2 コンピュータで Garmin Express アプリを開きます。
- 3 お使いの船舶とデバイスを選択します。
- 4 チャートの更新が利用可能な場合は、**チャートの更新 > 続行**を選択します。
- 5 契約条件を読み、これに同意します。
- 6 チャートプロッターのチャートメモリーカードをコンピュータに挿入します。
- 7 メモリーカードのドライブを選択します。
- 8 再フォーマット警告を確認し、**OK**を選択します。
- 9 チャート更新がメモリーカードにコピーされるまで待ちます。

注意: 更新ファイルをカードにコピーするには、数分から数時間かかる場合があります。

- 10 Garmin Express アプリを閉じます。
 - 11 コンピュータからメモリーカードを取り出します。
 - 12 チャートプロッターの電源を入れます。
 - 13 ホーム画面が表示されたら、メモリーカードをカードスロットに挿入します。
- 注意:** 更新の指示を表示するには、カードを挿入する前にデバイスを完全に起動する必要があります。
- 14 ソフトウェア更新 > はいを選択します。
 - 15 更新プロセスが完了するまで数分待ちます。
 - 16 プロンプトが表示されたら、メモリーカードをそのままにして、チャートプロッターを再起動します。
 - 17 メモリーカードを取り外します。
- 注意:** デバイスを完全に起動する前にメモリーカードを取り出すと、更新が完了しません。

ソフトウェア更新

新しいデバイスを取り付けたり、アクセサリを追加する場合、ソフトウェアの更新が必要な場合があります。

ActiveCaptain モバイルアプリを使用すると、デバイスソフトウェアを更新できます ([ActiveCaptain アプリでのソフトウェアの更新, 9 ページ](#))。

また、Garmin Express デスクトップアプリを使用すると、チャートプロッターソフトウェアを更新できます ([Garmin Express を使用して新しいソフトウェアをメモリーカードにロードする, 67 ページ](#))。

ソフトウェアバージョン 34.00 より、このデバイスは速度クラス 10 以上の exFAT にフォーマットされた最大 1 TB の microSD メモリーカードに対応しています。

ソフトウェアを更新する前に、デバイスにインストールされているソフトウェアのバージョンを確認してください ([システムソフトウェア情報の表示, 54 ページ](#))。次に、garmin.com/support/software/marine.html にアクセスすると、このバンドル内のすべてのデバイスを参照を選択して、インストールされているソフトウェアのバージョンとお使いの製品の掲載されているソフトウェアバージョンを比較できます。

お使いのデバイスにインストールされているソフトウェアバージョンが Web サイトに掲載されているバージョンよりも古い場合は、ActiveCaptain モバイルアプリ (ActiveCaptain アプリでのソフトウェアの更新, 9 ページ) または Garmin Express デスクトップアプリ ([Garmin Express を使用して新しいソフトウェアをメモリーカードにロードする, 67 ページ](#)) を使用してソフトウェアを更新してください。

Garmin Express を使用して新しいソフトウェアをメモリーカードにロードする

Garmin Express アプリを搭載したコンピュータを使用すると、ソフトウェア更新をメモリーカードにコピーできます。ソフトウェアバージョン 34.00 より、このデバイスは速度クラス 10 以上の exFAT にフォーマットされた最大 1 TB の microSD メモリーカードに対応しています。

ソフトウェア更新のダウンロードには、数分から数時間かかる場合があります。

ソフトウェアの更新には空のメモリーカードを使用してください。更新プロセスでは、カード上のコンテンツが消去され、カードが再フォーマットされます。

- 1 メモリーカードをコンピュータのカードスロットに挿入します。
- 2 Garmin Express アプリをインストールします ([コンピュータへの Garmin Express アプリのインストール](#), 64 ページ)。
- 3 お使いの船舶とデバイスを選択します。
- 4 ソフトウェア更新 > 続行を選択します。
- 5 契約条件を読み、これに同意します。
- 6 メモリーカードのドライブを選択します。
- 7 再フォーマット警告を確認し、続行を選択します。
- 8 ソフトウェア更新がメモリーカードにコピーされるまで待ちます。

注意: 更新ファイルをカードにコピーするには、数分から数時間かかる場合があります。

- 9 Garmin Express アプリを閉じます。

- 10 コンピュータからメモリーカードを取り出します。

更新をメモリーカードにロードした後、チャートプロッターにソフトウェアをインストールします ([メモリーカードを使用したデバイスソフトウェアの更新](#), 67 ページ)。

メモリーカードを使用したデバイスソフトウェアの更新

メモリーカードを使用してソフトウェアを更新するには、ソフトウェア更新メモリーカードを取得するか、Garmin Express アプリを使用して最新のソフトウェアをメモリーカードにロードする必要があります ([Garmin Express を使用して新しいソフトウェアをメモリーカードにロードする](#), 67 ページ)。

- 1 チャートプロッターの電源を入れます。
- 2 ホーム画面が表示されたら、メモリーカードをカードスロットに挿入します。
注意: ソフトウェアの更新指示を表示するには、カードを挿入する前にデバイスを完全に起動する必要があります。
- 3 今すぐ更新 > ソフトウェア更新 > はいを選択します。
- 4 ソフトウェア更新プロセスが完了するまで数分かかります。
- 5 プロンプトが表示されたら、メモリーカードをそのままにして、チャートプロッターを再起動します。
- 6 メモリーカードを取り外します。

注意: デバイスを完全に起動する前にメモリーカードを取り外すと、ソフトウェア更新が完了しません。

メモリカード上のイメージの表示

メモリカードに保存されているイメージを表示できます。.jpg、.png、および.bmp ファイルを表示できます。

- 1 イメージファイルを含むメモリカードをカードスロットに挿入します。
- 2  > 画像ビューアーの順に選択します。
- 3 イメージを含むフォルダを選択します。
- 4 サムネイルイメージがロードされるまで数秒待ちます。
- 5 イメージを選択します。
- 6 矢印を使用して、画像をスクロールします。
- 7 必要に応じて、MENU > スライドショーの開始の順に選択します。

スクリーンショット

チャートプロッターに表示された任意の画面のスクリーンショットを.png ファイルとしてキャプチャすることができます。スクリーンショットはコンピュータに転送できます。

スクリーンショットのキャプチャ

- 1 メモリーカードをカードスロットに挿入します。
- 2 キャプチャする画面に移動します。
- 3 HOME を 6 秒以上押し続けます。

スクリーンショットがキャプチャされたことを確認するメッセージが表示されます。これには、メモリーカードに書き込まれたファイルの名前が含まれます。

コンピュータへのスクリーンショットのコピー

- 1 チャートプロッターからメモリカードを取り外し、コンピュータに接続されているカードリーダーに挿入します。
- 2 Windows エクスプローラから、メモリカード上の Garmin\scrn フォルダを開きます。
- 3 カードからの画像ファイルをコピーし、コンピュータ上の任意の場所に貼り付けます。

トラブルシューティング

デバイスで GPS 信号を受信できない

デバイスで衛星信号を受信できない場合、いくつかの原因が考えられます。前回デバイスで衛星信号を取得してから長距離移動した場合や、数週間または数か月以上デバイスの電源がオフになっていた場合、衛星信号を正しく受信できないことがあります。

- ・ デバイスで最新のソフトウェアが使用されていることを確認してください。確認できない場合、デバイスのソフトウェアを更新してください ([ソフトウェア更新, 66 ページ](#))。
- ・ アンテナが GPS 信号を受信できるように、上空が開けた場所にデバイスを設置してください。室内に設置する場合は、GPS 信号を受信できるように窓の近くに配置する必要があります。

デバイスの電源がオンにならない、または繰り返しオフになる

デバイスの電源が不規則にオフになったり、オンにならない場合、デバイスへの電力の供給に問題がある可能性があります。次の項目を確認して、電源に関する問題の原因をトラブルシューティングしてください。

- ・ 電源で電力が生成されていることを確認します。
この確認方法は複数あります。例えば、その電源から電力を供給されている他のデバイスが機能しているかどうかを確認できます。
- ・ 電源ケーブルのヒューズを点検します。

ヒューズは、電源ケーブルの赤いワイヤーの一部であるホルダー内にあります。適切なサイズのヒューズが取り付けられていることを確認します。必要とされる正確なヒューズサイズについては、ケーブルのラベルまたはインストールガイドを参照してください。ヒューズを点検して、ヒューズ内の接続が維持されていることを確認します。マルチメーターを使用してヒューズをテストできます。ヒューズが正常な場合、マルチメーターの測定値は 0 オームになります。

- ・ DC12 V 以上の電圧がデバイスに供給されていることを確認します。
電圧を確認するには、電源ケーブルのメスの電源ソケットおよびアースソケットで DC 電圧を測定します。電圧が DC12 V 未満の場合、デバイスはオンになりません。
- ・ 十分な電力がデバイスに供給されているにもかかわらず、電源がオンにならない場合は、Garmin 製品サポートにお問い合わせください。

デバイスで正しい位置のウェイポイントが作成されない

デバイス間でデータを転送および共有するために、ウェイポイントの位置を手動で入力できます。座標を使用してウェイポイントを手動で入力した場合に、そのポイントの位置が適切に表示されないとときは、デバイスの地図の基準面および位置フォーマットが、ウェイポイントを登録するために最初に使用されていた地図の基準面および位置フォーマットと一致していない可能性があります。

位置フォーマットは、GPS レシーバーの位置を画面上に表示する方法です。これは通常は緯度／経度として度および分で表示され、オプションとして度、分および秒、度のみ、または複数のグリッドフォーマットのいずれかを使用できます。

地図の基準面は、地表の一部を表す数学モデルです。紙の地図上の緯線と経線は、特定の地図の基準面を基準にしています。

1 元のウェイポイントが作成されたときに使用された地図の基準面と位置フォーマットを確認します。

元のウェイポイントが地図から除去されている場合は、通常、地図の凡例に、その地図の作成に使用された地図の基準面と位置フォーマットが示されています。多くの場合、凡例は地図の注記の近くに記載されています。

2  > 環境設定 > 単位の順に選択します。

3 正しい地図の基準面と位置フォーマットの設定を選択します。

4 ウェイポイントを再度作成します。

仕様

仕様

全モデル

材質	ポリカーボネートプラスチック
防水等級	IEC 60529 IPX7 ³
温度範囲	-15°~55°C(5°~131°F)
入力電圧	DC 9~18 V
ヒューズ	3 A、125 V 速断型
メモリーカード	microSD カードスロット×1、最大カードサイズ 1 TB ⁴
ディスプレイ解像度	WVGA、800 × 480 ピクセル
ソナー周波数 ⁵	従来: 50/200、77/200、83/200 kHz シングルチャネル CHIRP: 40 ~ 250 kHz Garmin ClearVü CHIRP: 260/455/800 kHz
ソナー送信出力(RMS) ⁶	CHIRP: 500 W Garmin ClearVü CHIRP: 500 W
ソナー深度 ⁷	701 m(2,300 ft)@ 77 kHz
無線周波数	2.4 GHz @ 19.7 dBm 最大

5x モデル

寸法、チャートプロッターのみ(幅×高さ×奥行き)	188×122×61.5 mm (7 ³ /8×4 ¹³ /16×2 ⁷ /16 in.)
寸法、日除けカバー付きペイルマウント(幅×高さ×奥行き)	212×143.3×100 mm (8 ³ /8×5 ⁵ /8×3 ¹⁵ /16 in.)
チャートプロッター背後の最も近い障害物までの距離	57 mm (2 ¹ / ₄ in.)
ディスプレイサイズ(幅×高さ)	109×65.8 mm (4 ⁵ /16×2 ⁹ /16 in.) 127.3 mm (5 in.) 対角
重量	0.5 kg (1.1 lb.)
最大消費電力	8.4 W
DC 12 V(RMS)での標準消費電流	600 mA
消費電流(最大、DC 12 V 時)	700 mA
コンパス安全距離	7.62 cm (3 in.)

³このデバイスは水深 1 m、30 分までの偶発的な水没に耐える防水性能を備えています。詳細については、www.garmin.com/waterrating を参照してください。

⁴ソフトウェアバージョン 34.00 より、このデバイスは、exFAT にフォーマットされた最大 1 TB のメモリーカードと互換性があります。

⁵振動子によって異なります。

⁶振動子の定格と深度によって異なります。

⁷振動子、塩分濃度、底質、その他の水の条件によって異なります。

7x モデル

寸法、チャートプロッターのみ(幅×高さ×奥行き)	232×143.1×67 mm($9\frac{1}{8} \times 5\frac{5}{8} \times 2\frac{5}{8}$ in.)
寸法、日除けカバー付きペイルマウント(幅×高さ×奥行き)	243.4×153.9×105.5 mm($9\frac{9}{16} \times 6\frac{1}{16} \times 4\frac{1}{8}$ in.)
チャートプロッター背後の最も近い障害物までの距離	62.5 mm($2\frac{7}{16}$ in.)
ディスプレイサイズ(幅×高さ)	86.9×155.1 mm($3\frac{7}{16} \times 6\frac{1}{8}$ in.) 177.8 mm(7 in.)対角
重量	0.68 kg(1.5 lb.)
最大消費電力	15 W
DC 12 V(RMS)での標準消費電流	1.1 A
消費電流(最大、DC 12 V 時)	1.25 A
コンパス安全距離	12.7 cm(5 in.)

開始画像の推奨サイズ

開始画像に最適に収まるようにするには、次のサイズ(ピクセル単位)の画像を使用します。

モデル	ディスプレイ解像度	画像の幅	画像の高さ
ECHOMAP 5X および 7X	WVGA	680	200

support.garmin.com